

コーデックス委員会における包装前面栄養表示ガイドライン

1 PURPOSE:

1 目的:

Provide general guidance to assist in the development of front-of-pack nutrition labelling, a form of supplementary nutrition information, as a tool to facilitate the consumer's understanding of the nutritional value of the food and their choice of food, consistent with the national dietary guidance or health and nutrition policy of the country or region of implementation.

国の食事ガイダンス又は国や地域が実施する健康・栄養政策と一致し、消費者が食品の栄養価や食品選択の理解を促進するためのツールとして、補足的な栄養情報の形式としての包装前面栄養表示の開発を支援するための一般的なガイダンスを提供する。

2 SCOPE:

2 範囲:

2.1 These Guidelines apply to front-of-pack nutrition labelling (FOPNL) to be used on pre-packaged foods. FOPNL should only be provided in addition to, and not in place of, the nutrient declaration subject to the Section 5 of the Guidelines on Nutrition Labelling (CXG 2-1985).

2.1 これらのガイドラインは、包装済み食品に使用される包装前面栄養表示 (FOPNL) に適用される。FOPNL は栄養表示に関するガイドライン (CXG 2-1985) のセクション5の対象である栄養成分表示に加えて情報提供されるべきであり、栄養成分表示の代替とされるべきではない。

2.2 Foods covered by the following Codex standards are excluded:

Standard for Infant Formula and Formulas for Special Medical Purposes Intended for Infants (CXS 72-1981)

Standard for Follow-up formula (CXS 156-1987)

Standard for Labelling of and Claims for Foods for Special Medical Purposes (CXS 180-1991)

In addition, other foods could be considered for exclusion at a national level dependent on the type of FOPNL being developed, such as alcoholic beverages and other foods for special dietary uses.

FOPNL should not be used in any way that could promote the consumption of alcohol.

2.2 次のコーデックス規格で定義されている食品は除外される。

乳児用調整乳及び乳児用特殊医療用調整乳規格(CXS 72-1981)

フォローアップフォーミュラに関する規格(CXS 156-1987)

特殊医療用食品のための表示及び強調表示に関する規格(CXC 180-1991)

加えて、アルコール飲料や他の特殊用途食品など、その他の食品は開発中の FOPNL の種類に応じ、国レベルで除外対象が決定される。

FOPNL は、アルコールの消費を促進する方法で使用すべきではない。

2.3 Certain prepackaged foods may be exempted from FOPNL. Exemptions from FOPNL should align with the exemption from the nutrient declaration as described in Section 3.1.2 of the Guidelines on Nutrition Labelling (CXG 2-1985).

2.3 特定の包装済み食品は FOPNL から免除される場合がある。FOPNL の免除については、栄養表示に関するガイドライン (CXG 21985) のセクション 3.1.2 による栄養成分表示の免除と一致させる必要がある。

2.4 These Guidelines can also be used as a guide in the case where simplified nutrition information is displayed near the food (e.g. shelf-tags or food service), for unpackaged foods or for foods sold via online (e.g. information available at point of purchase on websites).

2.4 これらのガイドラインは、簡略化された栄養情報が食品の近くに表示される場合 (例えば、棚札やフードサービス)、包装されていない食品又はオンラインで販売される食品 (例えば、Web サイトで購入時に入手できる情報) のガイドとしても使用できる。

3 DEFINITION OF FRONT-OF-PACK NUTRITION LABELLING (FOPNL)

3 包装前面栄養表示 (FOPNL) の定義

For the purposes of these Guidelines:

これらのガイドラインの目的のために：

3.1 Front-of-pack nutrition labelling (FOPNL) is a form of supplementary nutrition information that presents simplified, nutrition information on the front-of-pack of pre-packaged foods. It can include symbols/graphics, text or a combination there of that provide information on the overall nutritional value of the food and/or on nutrients included in the FOPNL.

3.1 包装前面栄養表示 (FOPNL) は、簡略化された補足的な栄養情報の形式

で、包装済み食品の包装前面の栄養情報である。これには、食品の全体的な栄養価及び/又は FOPNL に含まれる栄養素に関する情報を提供する記号/グラフィック、テキスト又はそれらの組み合わせを含めることができる。

3.2 FOPNL can be voluntary or mandatory in line with national legislation.

3.2 FOPNL は、国内の法律に沿って、任意又は義務とすることができる。

4 PRINCIPLES FOR THE ESTABLISHMENT OF FOPNL SYSTEMS

4 FOPNL システムを確立するための一般原則

In addition to the general principles in the General Standard for the Labelling of Prepackaged Foods (CXS 1- 1985), a FOPNL should be based on the following principles:

包装食品の表示に関するコーデックス一般規格（CXS 1-1985）の一般原則に加えて、FOPNL は、以下の原則に基づくべきである。

Only one FOPNL system should be recommended by government in each country. However, if multiple FOPNL systems coexist, these should be complementary, not contradictory to each other.

各国で政府が推奨する FOPNL システムは 1 つだけであるべきである。ただし、複数の FOPNL システムが共存する場合、これらは互いに矛盾するのではなく、補完的であるべきである。

FOPNL should be applied to the food in a manner consistent with the corresponding nutrient declaration for that food.

FOPNL は、その食品に対応する栄養成分表示と一致する方法で提供されるべきである。

FOPNL should align with evidence-based national or regional dietary guidance or, in its absence, health and nutrition policies. Consideration should be given to the nutrients and/or the food groups which are discouraged and/or encouraged by these documents.

FOPNL は、証拠に基づいた国又は地域の食事ガイダンス若しくはそれがいない場合は健康・栄養政策に沿ったものでなければならない。それらの文書によって消費が推奨されていない栄養素・食品グループと推奨されている栄養素・食品グループの両方を考慮すべきである。

FOPNL should present information in a way that is easy to understand and use by consumers in the country or region of implementation. The format of the FOPNL should be supported by scientifically valid consumer research. FOPNL は、実施する国又は地域の消費者が理解及び利用しやすい方法で情報を提示すべきである。 FOPNL の形式は、科学的に有効な消費者調査によってサポートすべきである。

FOPNL should be clearly visible on the package/packaging at the point of purchase under normal conditions.

FOPNL は、通常の条件下で、購入時に容器包装にはっきりと表示すべきである。

FOPNL should help consumers to make appropriate comparisons between foods.

FOPNL は、消費者が食品を適切に比較できるようにすべきである。

FOPNL should be government led but developed in consultation with all interested parties including private sector, consumers, academia, public health associations among others.

FOPNL は政府主導であるべきであるが、民間部門、消費者、学界、公衆衛生学会などを含む全ての利害関係者と協働して開発すべきである。

FOPNL should be implemented in a way that facilitates the broad availability of FOPNL for consumer use.

FOPNL は、消費者の FOPNL の使用を促進する方法で実施すべきである。

FOPNL should be accompanied by a consumer education/ information program to increase consumer understanding and use of FOPNL in line with government recommendations.

FOPNL は政府の方針に沿って、消費者の FOPNL の理解・利用を促進するために、消費者教育・情報プログラムを伴うべきである。

FOPNL should be monitored and evaluated to determine effectiveness and impact.

FOPNL は、監視及び評価して、有効性及び影響を判断すべきである。

(消費者庁において仮訳作成)

諸外国等における取組について



スウェーデン王国

健康的な食品を簡単に見つけ、選択できるようにすることで、消費者がより食生活指針を守るために役立つことを目的としたFOPNLに取り組んでいる。また、食品製造業者を刺激し、より健康的な食品に向けた改良や開発を促進する狙いもある。

任意表示



(Key holeの表示例)

シンボルは健康的な食品であることを示している。

この取組では、ある食品が脂質、飽和脂肪酸、糖類、食物繊維、食塩の基準値を満たす場合に、シンボルを表示することができる。

対象となる食品は、容器包装に入った加工食品と一部の生鮮食品である。
対象外となる食品は、3歳までの乳児及び幼児を対象とする食品、甘味料（食品添加物）・Novel Food（チアシードなど）・甘味を有する成分・植物ステロールを含む食品（マーガリンなど）である。

参考資料 ○The National Food Agency's Code of Statutes 「Regulations amending the National Food Agency's regulations (SLVFS 2005:9) on the use of a particular symbol」

○Nordic Council of Ministers 「The Keyhole: Healthy choices made easy」

○Swedish Food Agency 「The Keyhole」



シンガポール共和国

消費者が買い物をする際に、十分な情報を得た上で食品を選択することを支援することによって、バランスのとれた食事や健康的なライフスタイルを促進することを目的としたFOPNLに取り組んでいる。

任意表示



Eat All Foods in Moderation



Lower in Saturated Fats
Higher in Wholegrains

(Healthier Choice Symbol Nutrientの表示例)

シンボルは健康的な食品であることを示している。
この取組では、ある食品が熱量、脂質、飽和脂肪酸、トランス脂肪酸、コレステロール、糖類、食物繊維、ナトリウム、カリウム、カルシウム、全粒穀類、Glycemic Indexの基準値を満たす場合に、シンボルを表示することができる。また、シンボルの下段には、バランスのとれた食生活を推奨する等の定型的な文言を表示している。

対象となる食品は、加工食品及び生鮮食品の飲料、穀類、たんぱく質源（肉類・魚介類・乳類・卵類・豆類）、油脂類、果実類、野菜類、調味料及び香辛料類、菓子類、調理済み食品である。

対象外となる食品は、糖類や飽和脂肪酸の含有量が多い飲料である。

参考資料 ○The Health Promotion Board 「Healthier Choice Symbol Nutrient Guideline (As of April 2020[revised])」



メキシコ合衆国

高エネルギーである加工食品や糖類を多く含む非アルコール飲料のパッケージに警告文を表示することで、若い世代を中心とする肥満者および肥満によって引き起こされる疾患発症率を抑制することを目的としたFOPNLに取り組んでいる。

義務表示



(Warning signsの表示例)

シンボルは特定の栄養成分の過剰摂取に繋がる旨を示している。

この取組では、ある食品が**熱量、飽和脂肪酸、トランス脂肪酸、糖類、ナトリウム**の1食分当たりの基準値を超える場合に、該当する栄養成分名のシンボルを表示しなければならない。

対象となる食品は、**栄養成分表示が義務付けられている加工食品及び非アルコール飲料**である。

対象外となる食品は、**業務用加工食品及び業務用非アルコール飲料、組み合せて販売する食品、販売する時点で包装する食品**である。

参考資料 ○United States Department of Agriculture Foreign Agricultural Service Voluntary Report 「Front of Pack Labeling Manual Published」

○日本貿易振興機構 地域・分析レポート「食品表示ラベル規格の改定に批判が集中（メキシコ）」



カナダ

飽和脂肪酸、糖類、ナトリウムを多く含む食品をより簡単に見分けることに役立てることによって、これらの栄養素の過剰摂取を避け、関連する健康リスクの軽減に繋げることを目的としたFOPNLに取り組んでいる。

義務表示



(Front of package nutrition symbol labellingの表示例)

シンボルは特定の栄養成分の過剰摂取に繋がる旨を示している。

この取組では、ある食品が飽和脂肪酸、糖類、ナトリウムの1食分当たりの基準値を超える場合に、シンボルに該当する栄養成分名を表示しなければならない。

対象となる食品は、栄養成分表示が義務付けられている加工食品である。

対象外となる食品は、特別用途食品（乳児用調製乳、病者用食品）、6ヶ月から1歳までの乳児を対象とした食品、Meal replacements（粉末状や固形状等）、栄養補助食品である。

参考資料 ○Health Canada 「Front-of-package nutrition symbol labelling guide for industry (July 2022 Version1)」



タイ王国

非伝染性疾患のリスクを低減するために消費者の栄養状態を改善するという公衆衛生の目標を支援することを目的としたFOPNLに取り組んでいる。

義務表示

Nutritive values per package

Consumption should be split into 2.5 times

Energy	Total sugar	Total fat	Sodium
410 kcal	0 g	22 g	310 mg
*21%	*0%	*34%	*13%

*calculated as percentage of recommended daily intake
(Guideline Daily Amountsの表示例)

シンボルは食品に含まれる栄養成分の含有量等を示している。

この取組では、ある食品に含まれる熱量、脂質、糖類、食物繊維、ナトリウムを、Guideline Daily Amounts（以下、「GDA」という。）方式で表示しなければならない。このGDA方式では、栄養成分の食品単位当たりの含有量と1日当たりの摂取許容量に占める割合を表示している。

対象となる食品は、種実類、乳類、菓子類、穀類、調理済み流通食品類、嗜好飲料類（非アルコール飲料）である。

- 参考資料 ○Food and Drug Administration, Thailand 「(No. 394) B.E.2561 (2018) Issued by virtue of the Food Act B.E. 2522 Re. Food products Required to bear Nutrition Labelling and Guideline Daily Amounts, GDA Labelling」
○農林水産省「令和2年度輸出環境整備推進委託事業（食品規格等調査）調査報告書 タイ王国 栄養成分及び栄養強調表示」



イタリア共和国

消費者への情報提供を目的とし、消費者が、ある食品に含まれる栄養素とともに、成人の1日の必要量に対しどれだけ貢献（割合で示される）しているかを理解することを目的としたFOPNLに取り組んでいる。

任意表示



(Nutrinform Batteryの表示例)

シンボルは食品に含まれる栄養成分の含有量等を示している。

この取組では、ある食品に含まれる**熱量、脂質、飽和脂肪酸、糖類、食塩**を、GDA方式で表示することができる。このGDA方式では、栄養成分の食品単位の含有量と1日当たりの食事摂取基準に占める割合を表示している。

対象となる食品は、栄養成分表示が義務となっている**全ての食品**である。
対象外となる食品は、栄養成分表示の省略規定となる**生鮮食品等、ナチュラルミネラルウォーター、容器包装の表示可能面積が小さい食品、栄養の共有源として寄与の程度が小さい食品、小規模事業者が製造する食品、EU域内における高品質な食品を知的財産として保護する制度の表示（GI保護制度）がされている食品（ハム、ワイン等）**である。

参考資料 ○農林水産省「令和2年度輸出環境整備推進委託事業（食品規格等調査）調査報告書 欧州連合 栄養成分及び栄養強調表示」

○The European Parliament and of the Council 「Regulation (EU) No 1169/2011」



英国

一目でわかる栄養情報を提供し、消費者がこの情報に基づいて食品を選択することで、食事バランスへの配慮やエネルギー摂取量を管理できるようになることを目的としたFOPNLに取り組んでいる。

任意表示

Each serving (150g) contains

Energy 1046kJ 250kcal	Fat 3.0g LOW	Saturates 1.3g LOW	Sugars 34g HIGH	Salt 0.9g MED
13%	4%	7%	38%	15%

of an adult's reference intake

Typical values (as sold) per 100g: 697kJ/167kcal

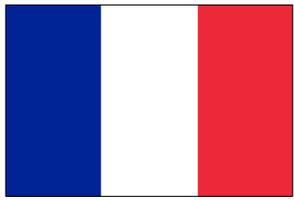
(Traffic light labellingの表示例)

シンボルは、赤で該当の栄養成分が多く含まれていること、緑で少なく含まれていることを示している。この取組では、ある食品に含まれる熱量、脂質、飽和脂肪酸、糖類、食塩を、GDA方式に加えて、含有量に合わせた色分けで表示することができる。色分けについては基準値が設定されている。このGDA方式では、栄養成分の食品単位当たりの含有量と1日当たりの食事摂取基準に占める割合を表示している。

対象となる食品は、栄養成分表示が義務となっている全ての食品である。
対象外となる食品は、栄養成分表示の省略規定の対象となる生鮮食品等、ナチュラルミネラルウォーター、容器包装の表示可能面積が小さい食品、栄養の共有源として寄与の程度が小さい食品、小規模事業者が製造する食品である。

参考資料 ○The Department of Health, the Food Standards Agency 「Guide to creating a front of pack (FoP) nutrition label for pre-packed products sold through retail outlets」

○The European Parliament and of the Council 「Regulation (EU) No 1169/2011」



フランス共和国

消費者のより健康的な食品選択を支援することを目的としたFOPNLに取り組んでいる。また、食品関連事業者における、より健康的な食品開発を促進する狙いもある。

任意表示



(Nutri-Scoreの表示例)

シンボルは、色分けとアルファベットにより食品が健康的であることを示している。

この取組では、ある食品に含まれる熱量、たんぱく質、飽和脂肪酸、糖類、食塩、食物繊維、野菜類、果実類、種実類、豆類を、英国食品基準庁の栄養プロファイリングシステムに基づく評価によって、色分けとアルファベットによるランク付けをしている。

対象となる食品は、全ての食品である。

対象外となる食品は栄養成分表示の省略規定の対象となる生鮮食品等、ナチュラルミネラルウォーター、容器包装の表示可能面積が小さい食品、栄養の共有源として寄与の程度が小さい食品、小規模事業者が製造する食品である。

- 参考資料
- Chantal J, Serge H (2017) Nutri-Score: Evidence of the effectiveness of the French front-of-pack nutrition label Science&Research, 64(12):181-187
 - 農林水産省「令和2年度輸出環境整備推進委託事業（食品規格等調査）調査報告書 欧州連合 栄養成分及び栄養強調表示」
 - World Health Organization PRESS RELEASE 「Nutri-Score: Harmonized and mandatory front-of-pack nutrition label urgently needed at the European Union level and beyond」
 - The European Parliament and of the Council 「Regulation (EU) No 1169/2011」



オーストラリア連邦

食品の容器包装を便利で適切なものにし、かつ容易に理解できる栄養情報及びガイダンスを提供することで、消費者が十分な情報を得た上で食品を購入し、より健康的な食生活を選択できるようになることを目的としたFOPNLに取り組んでいる。

任意表示



(Health star Rating systemの表示例)

シンボルは、星の数が多い食品であるほど健康的であることを示している。

この取組では、ある食品に含まれる熱量、たんぱく質、飽和脂肪酸、糖類、食物繊維、ナトリウム、野菜類、果物類、種実類、豆類を、自国の栄養プロファイリングシステムに基づく評価によって、星によるランク付けをしている。また、GDA方式や栄養強調表示をすることができる。

対象となる食品は、栄養成分表示が義務付けられている加工食品である。
対象外となる食品は、特別用途食品（乳児用調製乳、病者用食品）、1歳から3歳までの幼児を対象とした食品、スポーツ用のサプリメント等、酒類である。

参考資料 ○The Front-of-Pack Labelling (FoPL) Secretariat 「Health Star Rating system Calculator and Style Guide (March 2023 Version7)」

国内における食品関連事業者の 自主的な取組について

消費者の声を取りまとめるイオンのシステム「Voice」で収集した、特定原材料をパッケージ前面に表示して欲しいとの要望をもとに、2008年にアレルゲンのパッケージ前面の表示を開始したところ、栄養成分についても同様の要望が挙がったことが取組のきっかけになっている。そのため、消費者からの声に応えるかたちで、2014年から**消費者が商品を手にとらずとも、知りたい情報が一目で見て判断できるようなプライベートブランド商品（トップバリュ）となること**を目指して、栄養成分表示のパッケージ前面の表示を開始している。



(表示例)

この取組では、**1食分当たりのエネルギー、たんぱく質、脂質、糖質、食物繊維、食塩相当量の含有量**を表示している。フォントサイズは8ポイントを基本とし、その種類も**ユニバーサルデザインフォントから選定**している。

なお、**対象外の食品は、表示面積の小さい商品、酒類、水などの栄養の供給源としての寄与の程度が小さい食品、詰め合わせ食品、真空包装された食品（パッケージが変形するもの）**などである。

当該取組を導入するに際しての課題は、①パッケージの資材の切替えのタイミングを考慮する必要があったこと、②栄養成分よりも、アレルゲンや賞味期限、取り扱い上の注意等の優先順位が高い表示事項とのバランスを取ることが挙げられる。



消費者の健康意識の高まりを受けて、2015年にGuideline Daily Amounts (GDA) を導入するよう、トロピカーナのブランドオーナーであるペプシコ社から要請されたことに起因している。そのため、この要請を受け、2017年にバランスの摂れた健康的な食生活を実現するために、消費者が各製品に含まれる栄養素を理解した上で商品を選択することを目指して、栄養成分表示のパッケージ前面の表示を開始している。



(表示例)

この取組では、1本（又は200ml）当たりのエネルギーの含有量をパッケージ下部に表示している。配色は1色のみを使用することとしている。また、赤、黄、緑を背景色とする場合、信号機を想起させ、食品を評価していると消費者が誤認する可能性があることから使用を避けている*。また、フォントサイズは8ポイント以上としている。

なお、対象食品は、トロピカーナブランドのみである

*色を追加せず可読性が担保される場合には、赤、黄、緑を使用することもできる。

当該取組を導入するに際しての課題は、①パッケージの資材の切替えのタイミングを考慮する必要があったこと、②使用果汁が変動した際の表示値の正確性を担保するため、栄養成分の分析等の負荷（分析数の多さや費用等）が大きかったことが挙げられる。



日本コカ・コーラ株式会社

消費者の健康意識の高まりを受けて、グローバルのThe Coca-Cola Companyがリードし、2009年から世界各国のコカ・コーラ製品にFOPNLの導入を推進。日本でも、2011年に清涼飲料業界のリーダーとして自社製品に関する情報開示を促進することで、**消費者を取り巻く社会環境等の変化に対応しつつ、商品選択の機会の一助となること**を目指して、パッケージ前面におけるカロリー表示を開始している。



(表示例)

この取組では、**すぐに飲み切ることを想定した製品は1本当たり、500mlより大きい*製品は1杯（250ml）当たりのエネルギーの含有量**を、独自のタブレット型アイコンと統一フォントで認識しやすく表示している。ただし、エネルギーが0 kcal/100mlである商品では、1本当たりなどの食品単位は省略することとしている。

なお、**対象外の食品は、業務用食品、0 kcal/100mlの水、印刷瓶詰め食品、粉末や濃縮などの希釈方法によって栄養成分の密度が変化し得る食品などである。** *2011年当時

当該取組を導入するに際しての課題は、①パッケージ資材の切替えのコストおよびタイミングを考慮する必要があったこと、②FOPNLは日本ではなじみのない表示であったことから消費者に警戒感を抱かせ商品選択の対象外とされる懸念があったこと、③FOPNLによりパッケージデザインが毀損される懸念があったこと、が挙げられる。

アメリカの市場を視察する中で、参考となる好事例があり、パッケージの前面に栄養成分表示を配置する方が、栄養成分表示の視認性が高まると考えたことが取組のきっかけとなっている。そのため、2018年から消費者が商品を選択する際に必要な情報をしっかりと分かりやすい場所に表示することで、消費者のニーズに合致するプライベートブランド商品（セブンプレミアム）となることを目指して、栄養成分表示のパッケージ前面の表示を開始している。

北海道男爵いもの ポテトサラダ

Potato Salad

含まれている
アレルギー(7品目)

卵
egg

120g・172kcal(1袋120g当たり)

要冷蔵

(表示例)

この取組では、1食分当たりのエネルギーの含有量を商品名に近接した場所に表示している。取組当初は複数の栄養成分（エネルギー、たんぱく質、脂質、糖質、食物繊維、食塩相当量）も併記していたものの、消費者が特に意識しているエネルギーの量にターゲットを絞り込んでいる。

フォントサイズは16.5ポイントを基本としている。

なお、対象外の食品は、カット野菜や菓子のアソート品、調味料類などである。

当該取組を導入するに際しての課題は、①パッケージの資材の切替えのタイミングを考慮する必要があったこと、②パッケージ前面の栄養成分表示が、栄養強調表示に該当するのではないかと懸念があったことが挙げられる。

生協として、「バランスよく食べる」ことを重視しながら、健康な食事を応援する事業や活動を行っている。プライベートブランド商品（コープ商品）においても、健康な食事作りを、始めやすく・続けやすくするための「健康サポート食品」を2008年から配置し、パッケージ前面で訴求したい栄養成分表示を行っている。現在は2018年から開始した「手軽にとれる」「おいしく減らす」マークを付与し、消費者が栄養強調表示を視認しやすく、商品特長が一目で理解しやすいパッケージとしている。

手軽にとれる

おいしく減らす



(表示例)

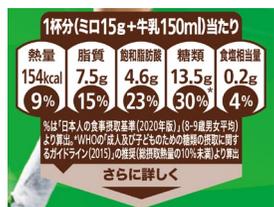
この取組では、原則、栄養強調表示の規定である「補給ができる旨」を満たす場合に「手軽にとれる」、「適切な摂取ができる旨」を満たす場合に「おいしく減らす」の文言をそれぞれ表示している。なお、「手軽にとれる」では、野菜や大豆が手軽にとれるなど栄養強調表示に規定がない基準も設定している。マークは横幅を20mm以上とすることとし、パッケージに応じて適宜、そのサイズを調整している。

なお、対象食品となり得るかについては、食品特性に応じて、社内で個別に判断している。

当該取組を導入するに際しての課題は、①栄養強調表示をする場合に、推定値による栄養成分表示ができないこと、②加工度が低く、含有量のばらつきの大きい商品等では栄養強調表示の規定を満たさず、マークが付けられない場合があること、③栄養成分の分析結果が決定するまで、パッケージデザインの作成作業が滞ることが挙げられる。

ネスレ日本株式会社

ネスレグループでは、「食の持つ力で、現在そしてこれからの世代のすべての人々の生活の質を高めていきます。」という存在意義の実現に向けて、栄養成分表示を中心とした製品の栄養情報を消費者に分かりやすく届けるために、Guideline Daily Amounts (GDA) を導入している。ネスレグループの基準に従い、日本では2008年から国内の法令に即した表示を行うことを最優先にしつつも、消費者が製品を購入する際に、十分な情報を得たうえで選択できる環境を醸成することを目指して、栄養成分表示のパッケージ前面の表示を継続している。



(表示例)

この取組では、1食分当たりのエネルギー、脂質、飽和脂肪酸、糖類、食塩相当量の含有量及び摂取目安に対する割合を表示している。GDAについては、栄養素等表示基準値、日本人の食事摂取基準、WHOガイドラインを参照している。

なお、エネルギーのみ表示するパターンもある他、業務用食品、水や調味料などの栄養の供給源としての寄与の程度が小さい食品、贈答用食品、特別な栄養ニーズ対応の製品などは、表示対象外としている。

当該取組を導入するに際しての課題は、①パッケージ資材の切替えのタイミングを考慮する必要があったこと、②各製品のブランドイメージを毀損しないような配色や表示位置への配慮、③栄養素等表示基準値に定めのない栄養成分や対象外の年齢への対応、④GDAについての消費者からの疑問・不明点に答えるための準備などが挙げられる。

インタビューガイド（事務局用）

A. 挨拶及び基本ルールの説明

(5分程度)

開始時間

(:)

終了予定時間

(:)

本日はインタビュー調査にご参加いただき、ありがとうございます。私は消費者庁食品表示企画課の（名前）です。今回のインタビュー調査の進行役を務めていきます。このインタビュー調査の目的は、皆さんから現在の栄養成分表示に対する印象や希望などを聞くことで、今後、消費者庁が食品表示のルールを作る際の参考情報としたいと考えております。なお、インタビュー調査は約1時間30分を予定しています。

まずは、インタビュー調査を開始する前に、参加者の皆さんに基本的なルールをお知らせします。

- 本日のインタビュー調査への参加は任意であり、皆さんはいつでも参加を辞める権利があります。
- 万が一、私の質問内容が不快であると感じる場合には、回答しないこともできますので、その場合はお知らせください。また、質問の意図が分からない場合は遠慮せずに聞き直してください。
- 後日、データ解析等を行うために、このインタビュー調査を音声とビデオにて記録します。記録上で、誰が発言したのかが把握できるよう、皆さんが発言する前には、その都度、お名前をお知らせください。
- 皆さんに発言の権利がありますので、まず始めは各質問に対して、着席の順番に回答するようにしてください。その後、追加で発言などがある場合は、私からの指名を待たずに発言していただいて差し支えありません。
- 携帯電話はマナーモードにするか、電源を切っておいてください。
- 最も重要なことは、私からの質問には正解も不正解も存在しないので、他の人と意見が異なっても、気にすることなく発言ください。私からの質問はどれもひっかけ問題ではありません。
- 消費者庁では、本日のインタビュー調査の内容を踏まえて、報告書を取りまとめる予定です。その報告書では、皆さんの属性や発言を引用する場合がありますが、皆さんの氏名や個人を特定し得る情報までを記載することはありません。

ここまでの説明について質問はありますか。

B. 栄養成分表示制度及びFOPNL等の取組の説明	
<p>(5分程度)</p> <p>開始予定時間 (:)</p> <p>終了予定時間 (:)</p>	<p>まずは現在の栄養成分表示に対する印象や希望について話し合う前に、テーマである栄養成分表示などの取組について、私から簡単に説明します。</p> <p><消費者庁からの説明></p>
C. 調査参加者からの自己紹介	
<p>(5分程度)</p> <p>開始予定時間 (:)</p> <p>終了予定時間 (:)</p>	<p>次にウォーミングアップとして自己紹介と簡単な質問への回答をお願いいたします。氏名と併せて、普段から食品表示を見ているのか、それはどの食品表示であるかをお聞かせください。</p> <p><消費者庁に続き、調査参加者からの自己紹介></p>
D. 現行の栄養成分表示についての意見交換	
<p>(30分程度)</p> <p>開始予定時間 (:)</p> <p>終了予定時間 (:)</p>	<p>先ほど説明した栄養成分表示のスライドでは、「文字が小さいこと」、「表示場所が分かりにくいこと」が課題として挙げられていますが、なぜ栄養成分表示が分かりにくいと感じられてしまうと思いますか。また、この分かりにくいを解決するためには、何が必要だと思いますか。事前質問と同じ回答でも差し支えないですし、他の調査参加者の回答を聞いたうえで、異なる回答をしていただいても問題ありませんので、皆さんからの率直な意見をお聞かせください。また、回答する際には、皆さん個人の意見だけでなく、同世代の友人ならば、どのように考えるのかを踏まえながら、発言いただくことも歓迎します。</p> <p><調査参加者からの回答></p> <p>※調査参加者の発言は、その都度、要約し、発言の趣旨をその場で整理すること。</p> <p>※他の調査参加者の発言を受けて、思いついたことはないか等の質問を促すこと。</p>

E. 分かりやすい栄養成分表示についての意見交換

(30分程度)

開始予定時間
(:)

終了予定時間
(:)

次の質問になりますが、「見にくさ」や「分かりにくさ」を解決する取組として最近ではパッケージの前面に栄養成分表示をする食品も存在しますが、皆さんにとって分かりやすい栄養成分表示とは、どのようなものだと思いますか。事前質問と同じ回答でも差し支えないですし、他の調査参加者の回答を聞いたうえで、異なる回答をしていただいても問題ありませんので、皆さんからの率直な意見をお聞かせください。また、回答する際には、皆さん個人の意見だけでなく、同世代の友人ならば、どのように考えるのかを踏まえながら、発言いただくことも歓迎します。

<調査参加者からの回答>

※調査参加者の発言は、その都度、要約し、発言の趣旨をその場で整理すること。

※他の調査参加者の発言を受けて、思いついたことはないか等の質問を促すこと。

F. クロージング

(10分程度)

開始予定時間
(:)

終了予定時間
(:)

活発にご発言いただき、ありがとうございました。終わりの時間になりますが、事前質問から本日のインタビュー調査をとおして、疑問に思ったことやこの場で発言しておきたいことはありますか。

<調査参加者からの回答>

本日、皆さんに発言いただいた現在の栄養成分表示に対する印象や希望については、今後、消費者庁が食品表示のルールを作る際の参考情報としていきたいと考えております。この度は、事前質問から本日のインタビュー調査までの長い時間にわたり、協力いただきましたことを心より感謝申し上げます。

インタビュー調査の配付資料



分かりやすい栄養成分表示の取組 に関する情報提供

消費者庁食品表示企画課

令和●年●月

我が国における栄養成分表示

食品の熱量や栄養素の量が分かる栄養成分表示制度

- ✓ 平成27年4月1日に食品表示法が施行され、容器包装に入れられた加工食品には栄養成分表示として、熱量、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウム（食塩相当量で表示）を必ず表示。
- ✓ 令和2年4月1日から完全施行となり、栄養成分表示を義務化。
- ✓ これらの5つの項目は、生命の維持に不可欠であるとともに、日本人の主要な生活習慣病と深く関連。
- ✓ 栄養成分表示を見て、上手に食品を選び、必要な栄養素を過不足なく摂取できれば、健康の維持・増進を図ることに役立つ。

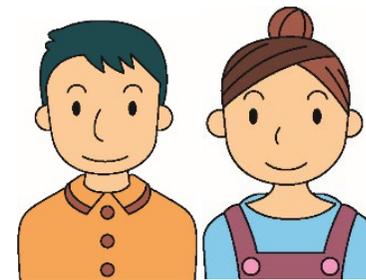
食品表示法の施行

栄養成分表示を義務化

栄養成分表示 1食分(〇g)当たり	
熱量	〇kcal
たんぱく質	〇g
脂質	〇g
炭水化物	〇g
食塩相当量	〇g

栄養成分の量が分かる

上手に食品を選ぶ



必要な栄養素を過不足なく摂取

健康の維持・増進

栄養成分表示における義務・推奨・任意表示の考え方

- ✓ 栄養成分の表示の在り方については、①消費者における表示の必要性、②事業者における表示の実行可能性及び③国際整合性を勘案して決定することとしている。
- ✓ 具体的には、①から③の全ての観点を満たす場合は義務表示、①の観点を満たす場合は推奨表示、①の観点を満たさない場合は任意表示としている。

	消費者への 必要性※1	事業者の 実行可能性※2	国際整合性※3	対象となる栄養成分等
義務表示	○	○	○	熱量、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウム（食塩相当量に換算したもの）
推奨表示※4	○		△ (飽和脂肪酸)	飽和脂肪酸、食物繊維
任意表示			△ (糖質、糖類)	糖質、糖類、トランス脂肪酸、コレステロール、ビタミン類、ミネラル類（ナトリウムを除く）

※1 消費者の摂取状況等を踏まえた消費者への表示の必要性があること。（国民の摂取状況、生活習慣病との関連等）

※2 事業者にとって表示が実行可能であること。（日本食品標準成分表の数値収載率等）

※3 国際基準と整合していること。（コーデックス委員会の栄養表示ガイドライン等）

※4 消費者にとって表示の必要性が高いものとして将来的に義務化を目指す項目として設定するもの。

栄養成分表示の表示例

【義務表示】

食品表示法により、表示が義務付けられた5つの項目。これらは、生活習慣病予防や健康の維持・増進に深く関わる重要な成分。

※熱量はエネルギーと表示できる。

【推奨表示】

脂質のうち「飽和脂肪酸」、炭水化物のうち「食物繊維」は、日本人の摂取状況や生活習慣病予防との関連から表示することが推奨される成分。

栄養成分表示	
1食分(〇g)当たり	
熱量	〇kcal
たんぱく質	〇g
脂質	〇g
● 飽和脂肪酸	〇g
炭水化物	〇g
● 食塩相当量	〇g
● ビタミンC	〇mg

【表示の単位】

100g当たり、100ml当たり、1個当たり、1食分当たりなど、それぞれの単位ごとに栄養成分の含有量が表示。

ナトリウムの含有量は、**食塩相当量**として表示。

高血圧予防の観点から、食塩摂取量の目標と比較しやすくなった。

【任意表示】

ミネラル（カルシウム、鉄など）、ビタミン（ビタミンA、ビタミンCなど）、n-3系脂肪酸、n-6系脂肪酸、コレステロール、糖質及び糖類は、任意で表示。

栄養成分表示の対象食品及び省略規定

	加工食品	生鮮食品	添加物
一般用	義務	任意	義務
業務用	任意	任意	任意

一般用加工食品は、栄養成分表示が義務付けられているが、以下に該当する食品は表示を省略することができる※（食品表示基準第3条第3項）。

- 容器包装の表示可能面積がおおむね30cm²以下であるもの
- 酒類
- 栄養の供給源としての寄与の程度が小さいもの
- 極めて短い期間で原材料（その配合割合を含む。）が変更されるもの
- 消費税法（昭和63年法律第108号）第9条第1項において消費税を納める義務が免除される事業者又は中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条第5項に規定する小規模事業者が販売するもの

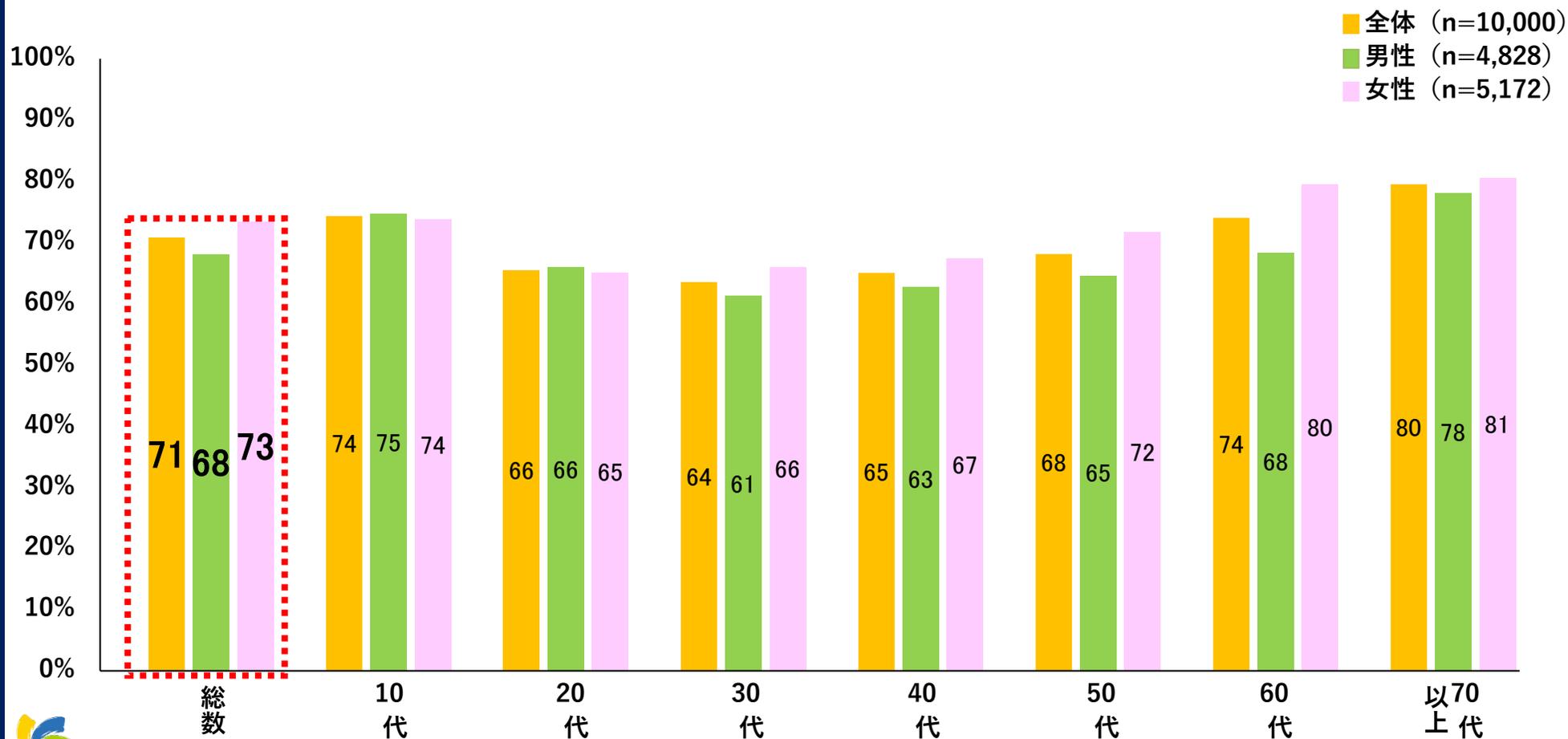
また、以下の場合も表示を要しない※（食品表示基準第5条第1項）。

- 食品を製造し、又は加工した場所で販売する場合
- 不特定又は多数の者に対して譲渡（販売を除く。）する場合

※ただし、栄養表示をしようとする場合を除く。

消費者における栄養成分表示の認知度

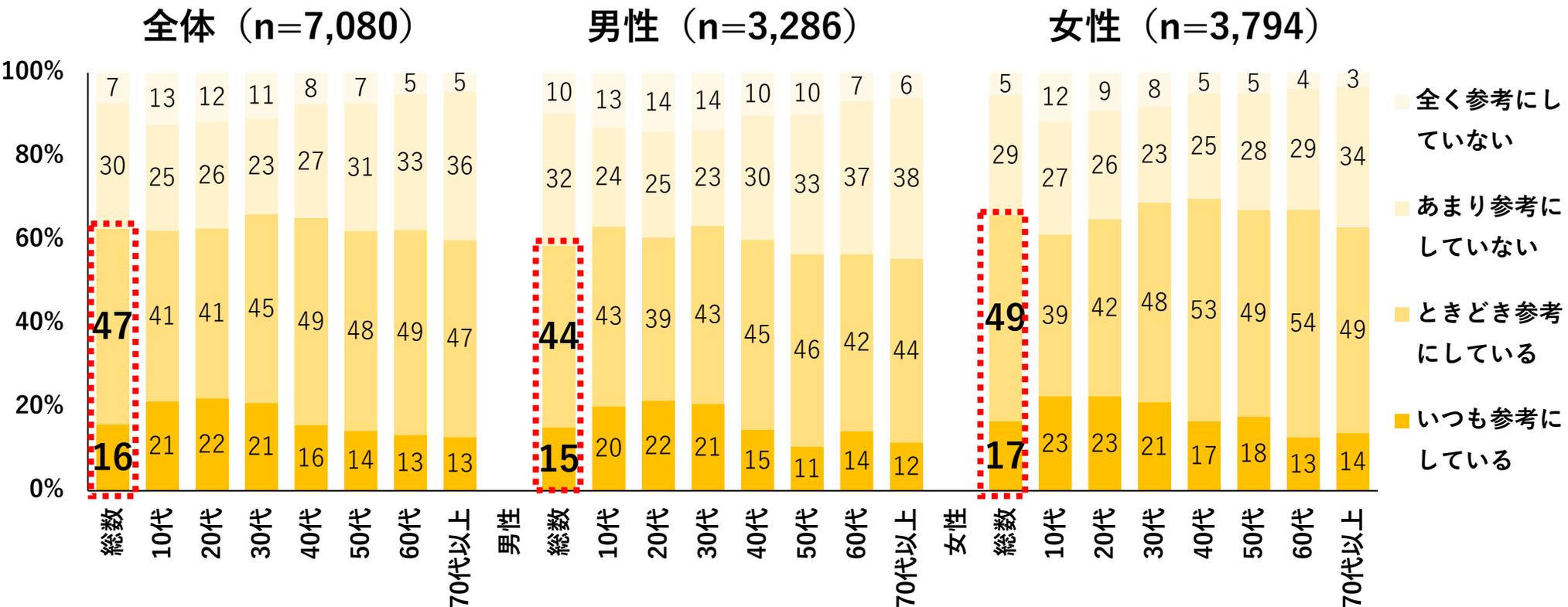
- ✓ 食品に栄養成分が表示がされていることを知っている者の割合については、全体が71%、男性が68%、女性が73%であった。



出典：令和4年度食品表示に関する消費者意向調査（消費者庁）

消費者における栄養成分表示の参考の程度

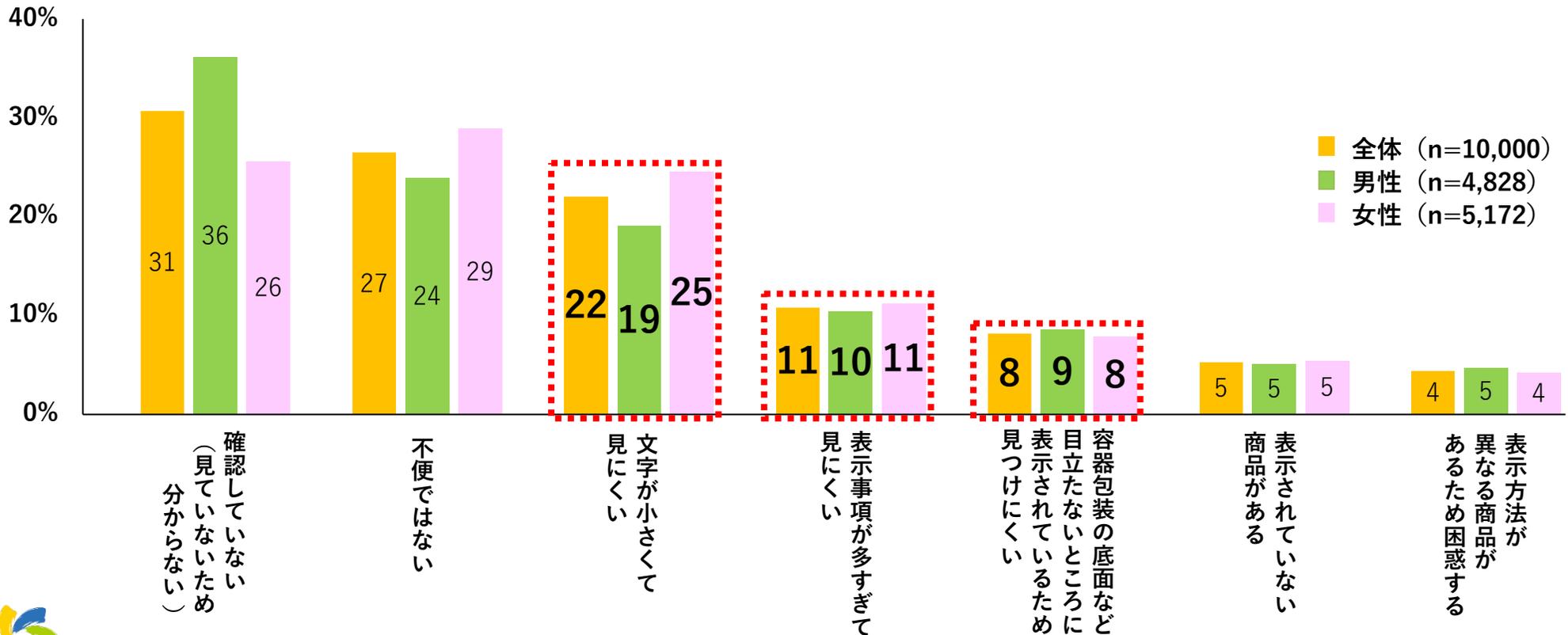
✓ 食品の購入時など、ふだんの食生活において栄養成分表示を参考にしている者*の割合については、全体が63%、男性が59%、女性が66%であった。



*食品に栄養成分が表示されていることを知っているとは回答した者において、「いつも参考にしている」又は「ときどき参考にしている」と回答した者の合計を栄養成分表示を参考にしている者とした。

消費者が栄養成分表示を不便に感じる点

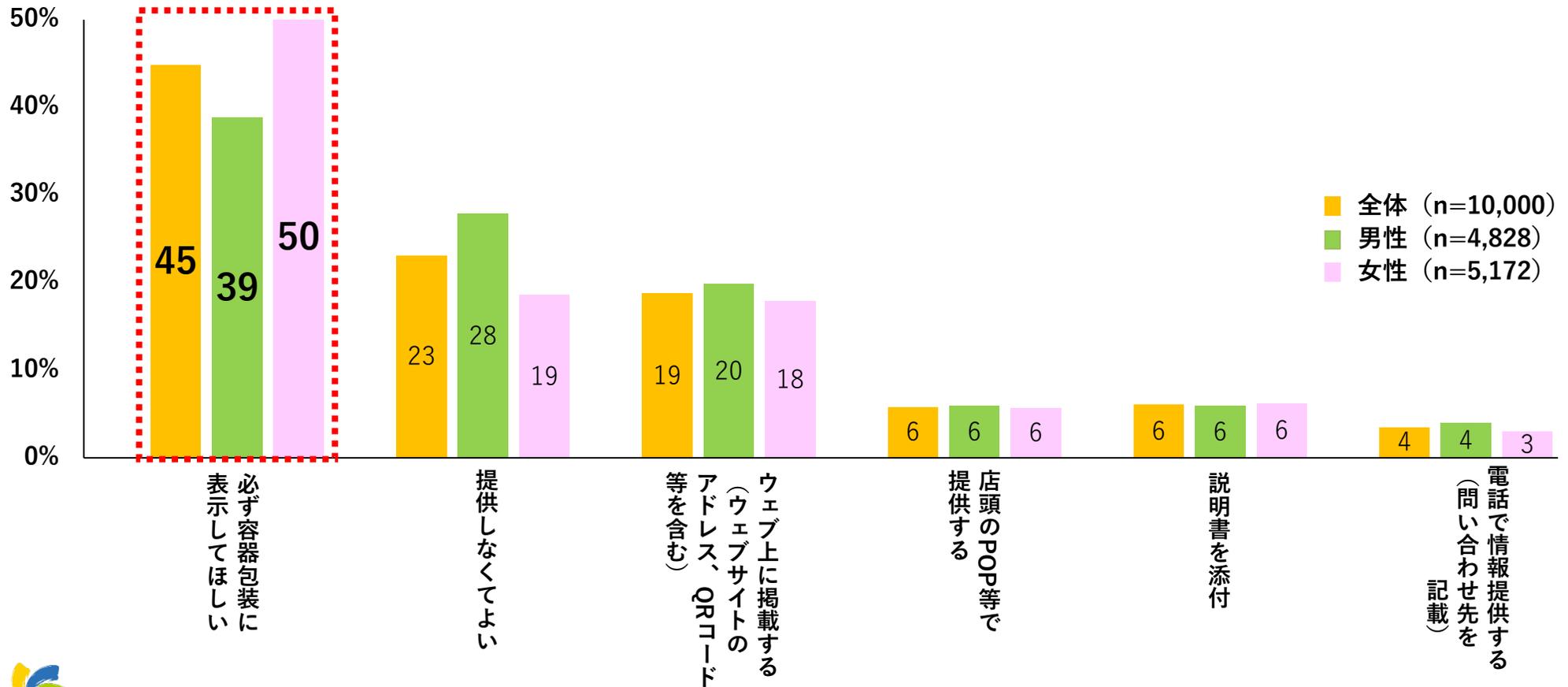
- ✓ 容器包装に表示された栄養成分表示について、知りたい情報を確認する際に不便に感じる点としては、「確認していない」、「不便ではない」に次いで、「文字が小さくて見にくい」、「表示事項が多すぎて見にくい」、「容器包装の底面など目立たないところに表示されているため見つけにくい」との回答が多かった。



出典：令和4年度食品表示に関する消費者意向調査（消費者庁）

消費者が望む栄養成分表示の情報提供方法

- ✓ 表示の文字を大きくするために容器包装に掲載する栄養成分表示を、WEBなどの別の方法で情報提供する場合なくしてもよいか、また、なくした場合、どのような提供方法に変更するのが良いと思うかについては、「必ず容器包装に表示してほしい」との回答が最も多かった。



諸外国等における取組

諸外国におけるFOPNLの取組事例

閾値・カテゴリー又はスコアリング型

任意表示



スウェーデン王国



Eat All Foods in Moderation

シンガポール共和国



フランス共和国



オーストラリア連邦

義務表示



メキシコ合衆国



カナダ

栄養素含有量表示型



イタリア共和国

Each serving (150g) contains

Energy	Fat	Saturates	Sugars	Salt
1046kJ 250kcal	3.0g LOW	1.3g LOW	34g HIGH	0.9g MED
13%	4%	7%	38%	15%

of an adult's reference intake

Typical values (as sold) per 100g: 697kJ / 167kcal

英国

Nutritive values per package
Consumption should be split into 2.5 times

Energy	Total sugar	Total fat	Sodium
410 kcal	0 g	22 g	310 mg
*21%	*0%	*34%	*13%

*calculated as percentage of recommended daily intake

タイ王国

インタビュー調査の結果（一般消費者：ふだんの食生活において栄養成分表示を参考にしている者）

論点	カテゴリー	コード	要約文		
01.現状の栄養成分表示の捉え方	01.気になるのを見て購入する	01.買い物度見ている	私は栄養成分表示は結構見る。カロリーが気になるのと、ビタミン、たんぱく質など栄養が入っている商品を購入したいので。買い物のたびに見てから買っている。(40歳代、女性)		
		02.スポーツ経験から表示をよく見て意識していた	成分表示を見始めたのは学生時代に格闘技をやっていた頃から。試合のときに減量があったので食事の中で高たんぱく・低脂質・低カロリーを意識して、おにぎりを買うときにも意識していた。(30歳代、男性)		
		02.気になる所は見てから悩む	03.トランス脂肪酸が入っているとやめようか悩む	体に悪いと言われていたトランス脂肪酸とかが入っていると、これはやめておこうかなと思うことはたまにある。(50歳代、男性)	
			03.気になる時に気になるものを見る	04.惣菜パンや冷凍食品など物によっては見る	惣菜パンの裏とかにはカロリーが書いてあるので、それを見て、「こんなにカロリーがあるんだ、じゃあこっちにしよう」ということはある。ものによっては参考にしている。(50歳代、男性)
				05.カロリーだけは気にして見る	大学でお菓子を買うときに夜食にカロリーが高いのを食べるのが気になるので、カロリーは気にして見ている。(20歳代、女性)
	04.気が向けば見る	06.気が向けば程度	身回りの人も、ダイエットのことでカロリーのことは意識しているようだが、ビタミンとかそういう話はしない。カロリーがヤバいねというくらい。(40歳代、女性)		
			基本的にカロリーとか糖質しか気にしていない。ビタミンは過剰摂取しても問題ないと思っている。(60歳代、女性)		
			成分表示はお酒が好きなので、同じビールでもカロリーはこれぐらい違うのかというのは見たりするが、それを参考に購入することはあまりない。(50歳代、男性)		
			社会人になってからはそんなに格闘技の試合に出ていないのでそこまで気にしていないが、今はドリンク類は結構見る。カロリーを抑えたい気持ちがあるので。今は使っている甘味料によってカロリーも2倍3倍違うので、ドリンクはチラチラ見ている。(30歳代、男性)		
			成分表示は気が向けば見る程度。(60歳代、女性)		
05.分からないので気にしない	07.自分の摂取量が分からないので気にしない	自分がとっている塩分や脂質がどれだけか分からないので、そこはあまり気にしないと言えば気にしない。(50歳代、男性)			
02.栄養成分表示を見ない理由	06.今の表示が見づらく読む気が失せる	08.文字が見づらいのが一番	基本的に文字が小さくて見づらいというのが一番。(60歳代、女性)		
		09.どこに書いてあるか分かりづらい	容器の底辺や裏側に表示するのはやめてほしい。表の上部の隅にでも基本的な表示をしてほしい。裏に表示されていることが多い。(60歳代、女性)		
			小さかったり裏面にあったりするので分かりにくいということだが、それは逆にジャンキーな食品を作っている会社は表に出したくないというのはあるのかなと思う。逆に位置的に見えづらくしているのかなと思うことは若干ある。(30歳代、男性)		
			同年代の友だちと（栄養表示に関して）お話しすることはないけれど、栄養士の友だちは気にしているというのは聞いたことがあるが、私が興味ないので具体的に何を気にしているかは聞いたことがない。(30歳代、女性)		
		10.日本の表示は情報量が多すぎる	外国の取組もA国の表示が見やすかったの、そういう表示もいいなと思う。A国は色が分かれていて分かりやすいのと、パーセンテージもハイとかローか、色別に表していて、短文で分かりやすい。日本のものは情報量が多い。(20歳代、女性)		
	11.途中で改行されたりすると読む気が失せる	文字だけ見ると、ただ文字だけの羅列なので、途中で行を変えられたりすると読む気が失せる。(20歳代、女性)			
	12.1回の目安量で表示されていない	栄養成分表示はミネラルウォーターだったら「100mlあたり」とあるが、調味料も1回の目安量がある方が使いやすい。調味料って大きさ1杯あたり15gとか書いてあるので、そういうのはたまに見たりするが、それで何か行動するということではなくて、おいしきやいと思っ使ってしまう。(50歳代、男性)			
	07.手軽に見ることができない	13.文字が細かすぎて老眼鏡をかけるのが手間	文字が細かすぎて見づらいというのもあるが、いちいちスーパーで老眼鏡をかけるのも手間だし、混んでいると迷惑になる。(60歳代、女性)		
			14.表示を見るため手に取り棚に戻すのが嫌	それを手に取って購入をやめたときにそれを戻すのが嫌ということがある。(60歳代、女性)	
				手に取ったものを戻すのに気を遣う。それを触らずに見られれば一番いい。手に取ったものを戻すのもちょっと嫌。(60歳代、女性)	
03.栄養成分表示を活用しない理由	08.数値の意味が分からない	15.表示を見ても自分の栄養素必要量が分かっていない	自分が1日にどれぐらい必要なか普通は知らないですね。カロリーは分かるけど、他は分からないだろうと思う。配偶者もカロリーはすごく見ているけれど、他は見えていない。(30歳代、男性)		
		16.何グラム増量といってもその基準が分からない	私も栄養成分の量を読み取るのが難しいというのは一番に思っている。野菜ジュースを買ってビタミンやミネラルをとりたと思って商品を見ても、どれだけ必要なか分からない。そもそもどれだけ自分に必要か分かっていないので。(40歳代、女性)		
			格闘技をやっていないが、1日にどれぐらいが適切なかが分からなかったと思うので役立てようがないと思う。カロリーは分かるけど他は分からないと思う。(30歳代、男性)		
	09.負担が多いわりにメリットを感じない	17.結局面倒に感じる	プロテインヨーグルトも、何グラム増量と書かれていても基準が分からない。「プロテインたっぷり」と書かれていると買ってみたいと思う。増量と言われると買ってみたい。(40歳代、女性)		
			実際にこれを使って料理をすることでこれぐらいみたいな例があった方がいいけれど、自分ではなかなか活用しない。世間的にはファミレスに行くとこれは何キロカロリーとか表示があったりするので、情報としてあればいいかもしれないが、そういう情報は私は取りにいかない。(50歳代、男性)		
18.家の料理に使う物だと意味がない	パンとかビールはそのまま消費するから表示を受け入れるけど、家で料理に使うものだと使いづらい。あっても意味ないというか。(50歳代、男性)				
		ビールとかパンは単品で食べるので、カロリーや脂質が書かれていれば、ダイレクトにそれだけとっているのねと分かるけれど、調味料とかが混ざってしまうとわからなくなってしまう。あとで調理をしたりソースをかけたければわからなくなってしまうので、もうおいしければいいやと思ってしまう。(50歳代、男性)			

インタビュー調査の結果（一般消費者：ふだんの食生活において栄養成分表示を参考にしている者）

論点	カテゴリー	コード	要約文	
04.分かりやすい表示にするための改善案	10.親切な表示にする	19.大きく表示	並んであるところに大きめに表示されていると使いやすいし、それが助かる。(60歳代、女性)	
		20.包装の前面に表示	FOPNLってフロントって意味だと思うので、前面に分かりやすくていいことが大事になると思う。(20歳代、女性)	
		21.枠を太くして目立たせる	表示も黒とか薄いブルーで、あまり際立っていないので印象が薄い。見ない人も多いんじゃないかと思う。(40歳代、男性)	
		22.色盲の方でも見やすい文字の色	私の弟が色弱なので、赤い文字だと分かりにくかったりするので、そういうことも考慮してくれるといいのかなと思う。(20歳代、女性)	
	11.情報量を適切にシンプルにする	24.情報量を絞る	23.誤認識しないような強調表示	パッケージに「カルシウムがめっちゃ入ってます」とか、「食物繊維がとれます」と書かれていてもカロリーが高かったりすることはある。一つの栄養素は良かったとしても、他の栄養素が過剰という食品は結構ある。パッケージを見てバランスがとれているものだと誤認識してしまうケースもある。(30歳代、男性)
			25.表示項目数は5個ぐらいでちょうど良い	外国の取組もA国の表示が見やすかったんで、そういう表示もいいなと思う。A国は色が分かれていて分かりやすいのと、パーセンテージもハイとかローか、色別に表していて、短文で分かりやすい。日本のものは情報量が多い。(20歳代、女性)
		26.数値も必要	表示項目数は5個ぐらいでいいと思う。(60歳代、女性)	私もそう思う。栄養成分表示の量自体は少ないと思わない。(30歳代、男性)
			私も表示項目数は5個でいいのかなと思う。(50歳代、男性)	私もA国の例がいいと思う。FOPNLだとしたら、日本にも5項目は欲しい。(40歳代、女性)
		27.視覚的にパッと分かりやすく	ビタミンって商品によると思うので、ミネラルウォーターにビタミンが含まれていても見ないと思う。このカテゴリーの商品だけ義務化ということでもいいかなと思う。あまり多すぎても見ないと思うので5個で十分だと思う。(20歳代、女性)	自分は今のこの細かい表示だと見にくいと思う。(40歳代、男性)
			同年代の人とこういった表示に関して会話することがないので、同年代の人がどう考えているかは分からないが、文字の見にくさは感じているとなんとなく思う。文字が小さいのと同じような色だと目立たなくてよく分からない。(40歳代、男性)	B国のようにパッと分かるように表示されているだけでいいと思う。数字で書かれていても性別や年齢や体質が変わってくると思うので、それはそれぞれ個人で考えればいいことだと思う。数字はあってもなくてもいいが、パッと見て分かるような表示にさせていただけると助かる。(60歳代、女性)
12.消費者自ら判断できるようにする	28.1回の目安量あたりでの表示	B国はパッと見て分かるのでとてもいいと思う。自分に必要な栄養素とか、とりたくない栄養素はこの年齢になるとだいたい分かるので、それを数値で細かく見る必要もないと思っているし、これだとどれだけが危険区域というのがパッと分かって判断しやすい。(60歳代、女性)	今はペットボトル飲料で脂肪を燃焼させるという機能性表示食品というのがありますが、よく見ると小さい字で「1日2本」とか書いてあったりする。それを見て「機能性って書いてあるけど、そうでもないんだ」と思った。やるなら大きく目立つように書いてほしい。暇なときに見たら「なんだ、1200cc飲まないといけなんだ」と思ったことがある。(50歳代、男性)	
		QRコードを使った取組はあったら面白いなと思うが、飲物だとくしゃくしゃになってしまっただけで読みづらいと思う。あったら面白いと思うが、毎回やるかという分からない。ものによる。飲物や冷凍食品ならやらないけど、1食分で使うような食品ならやるかもしれない。(20歳代、女性)		
	29.1日の必要量に対するパーセンテージ表示	パッケージに1日何グラムとか、プロテインなら成人女性に1日に何グラム必要とか、ちょっとでも基準が書いてあると違うと思う。商品によって載せるのが難しいとは思いますが、そういうひと言があると分かりやすいと思う。1日何グラム必要うちの何グラムがこれで摂れるという表示がいい。(40歳代、女性)	成人男性1日あたりとか、成分が高いとか低いとか、目安が分かると活用しやすいと思う。一つは1日の摂取量に対してのパーセンテージの高い低い。(30歳代、男性)	
		私も数字の羅列だけよりは、A国のやつがいいと思う。なぜならパーセンテージが書いてあるのと、どれだけ入っているか具体的に書いてあるので。(50歳代、男性)		
	30.数値が高いか低いかの判断表示	表示項目数は5個でいいとは思いますが、ハイとかローの数値が高いのか低いのか分かるのとよりいいかなと思う。(40歳代、女性)	基準値を基に高いか低いかが分かりたい。私はA国のパーセンテージが自分にはピンとこないんで、高い・低い基準を設けてもらった方が分かりやすいと思う。急いで買物をするところもあるので、手に取ったときにそのパーセンテージがパッと分かること。基準値より高いか低いか簡略的に分かるといい。(40歳代、女性)	
		義務表示になる根拠は、「摂取状況を踏まえた消費者への表示の必要性がある」と書かれているので、エネルギーとか、量は表示するべきだと思う。高いとか、低いというも 国民の皆さんの健康意識を上げる意味では載せた方がいいのかなと思う。(20歳代、女性)		
	31.一般的な食品の平均値と比べて高いか低いかを表示	目安で思い付く一つは、製品のカテゴリーごとの成分の平均値。それが分かればこの製品がいいかどうかの位置付けになると思う。お菓子なら、一般的なあるお菓子100gあたりと比べて塩分が多いか少ないかというもの。(30歳代、男性)		
	32.食品の種類ごとに評価基準の設定	思いつきだが、結局パッケージを作るのってメーカーなので、メーカーが出したくなるようなスコアリングがあったらどうかと思う。今はトクホのペットボトル飲料があって、トクホの認定がつくとメーカーがめっちゃめっちゃ前面に書いたりする。スコアリングの基準みたいなものを設けて、バランスが取れているものは載せていいという制度を作れば、メーカーがパッケージを作るときに前面に推したくなるような仕組みになる。(30歳代、男性)	基本的に脂質とか糖質が高いと赤とか、そういうものは控えるかなと思う。5つにABCDEの表示があるとありがたいが、それに無理があるとしたら、その食品の気をつけるべき項目だけでもいいかなと思う。(60歳代、女性)	
		33.摂り過ぎを予防する表示	基本的には摂りすぎないようにするための表示が欲しい。逆にこれを多めに摂りたいという意欲はない。(60歳代、女性)	
	34.色・高いか低いかの判断・パーセンテージを組み合わせる	各栄養素の表示も持病がある方や健康意識の高い人もいると思うので、ここは残しておいて。この細かい数字が必要な人もいるだろうから残した方がいい。(40歳代、男性)	買い物時のシチュエーションとしてそこまで時間がなかったりする。色が基準値より高めだったら赤とか、普通だったら緑とかいうのがあるといい。(40歳代、女性)	
外国の例はエネルギーとかシュガーとか、今までの複数の栄養素をギュッと縮小して分かりやすくアイコンにしている。それだけでもゴチャゴチャ書いてある表示よりは格段に分かりやすい。(40歳代、男性)				
13.統一したロゴ/マークにする	35.ロゴを統一	同年代の人と栄養成分の会話をするのはほとんどなくて、せいぜいコーヒーのカフェインについて。なので細かい表示よりはアイコン化されたカテゴリー表示の方が消費者にとって分かりやすさにつながるんじゃないかと思う。(40歳代、男性)	複数の栄養素を全部アイコン化してしまうと情報量がかえって多くなって見づらくなってしまふので、外国のようにファット、シュガー、ナトリウムとか、ある程度カテゴリー化したやつに絞って表示するのはアリじゃないかと思う。(40歳代、男性)	
		今まで消費者庁さんがこういった形で表示するとルールとして決められているので、それをメーカーが独自にアイコン化をいろんな形でやってしまうと消費者も混乱してしまう。メーカーさん独自で決めるのではなく、ルール化して同じような表示方法に統一してくれた方が消費者として分かりやすいかなと思う。(40歳代、男性)	私もロゴは統一した方がいいと思う。消費者庁さんが全部メーカーさんを取りまとめたやつの方が信頼できていいと思う。メーカーさんいろんな商品を出したりするので、平等をはかる意味でも統一した方がいいと思う。(40歳代、女性)	
		同じくロゴは統一した方がいいと思う。それぞれのメーカー基準にすると、それぞれで追いつけなさいいけないので基準を設けた方がいい。(60歳代、女性)	同じくロゴは統一した方がいいと思う。それぞれのメーカー基準にすると、それぞれで追いつけなさいいけないので基準を設けた方がいい。(60歳代、女性)	
		36.トクホみたいなお墨付きマークの付与	トクホみたいなお墨付きマークみたいなことです。二つあったら、こっちを手に取りたくなるような。こういうマーク1個でいいと思う。それが取れたら栄養表示を推してくると思うし、逆にジャンキーなスナックだったらオーバ前提で面白い製品を作ってくるかもしれない。お墨付きマークが普及すると、逆にこれが付いていない激辛大盛りみたいなものも出てくると思う。(30歳代、男性)	

インタビュー調査の結果（一般消費者：ふだんの食生活において栄養成分表示を参考にしている者）

参考資料 6-1

論点	カテゴリー	コード	要約文
05.パッケージ以外の取組	14.知りたい人が更に情報を取得できるようにする	37.POPを活用する	QRコードはやりにくい。商品のポップや値札のところにA国の表示のような情報があったら使いやすそうではある。見るには見ると思う。値札は絶対に見るので。(30歳代、男性)
		38.バーコードを活用する	バーコードが製品識別番号として付いていると思うが、今はA社だとバーコードを読むと金額が分かる。そういう機能を使って何キロカロリーというのが出れば良いと思う。お店の読み取り機能を使ってかざすと、何キロカロリーと出るとか。自分のスマホを使ってやるというのはその場ではなかなかやらないと思う。(50歳代、男性)
		39.二次元コードを活用する	それ以上掘り下げたい人はQRコードやWEBに誘導してもいいと思う。(30歳代、男性)
	15.楽しみながら自己管理できるようにする	40.ゲーミフィケーションを導入する	普段から食べているものが実は体に悪かったということになれば、それは気付きとしては面白いなと思う。健康にいい方向にしたいけど、自分の食べたいものを食べるとか、自己管理の材料のきっかけにはなると思う。堅苦しくやるよりはゲーム感覚でやる方が楽しいと思うので。(30歳代、男性)
		41.食事管理アプリと連携する	食事管理アプリは、カロリーはスマートフォンアプリを痩せたいときだけ短期的に使っている。そのようなアプリに自分の情報がたまっていくとすごく面白いなと思う。購入前やるかは分からないが、購入後にピッとやって、今日はカロリーとり過ぎとかいうのだったら面白いとは思う。購入のときの比較には使えないけど、今自分が食べているものを把握するためには使えそう。毎回ルーティンで買っているものは見るけれど、新製品を買う前に見るとするのは厳しいかなと思う。(30歳代、男性)
	16.専門家からの教育	42.自分の必要量の基準値を知る	前に格闘技をやっていたときに、たんぱく質は1食20gまでしか食事で吸収できないと聞いていたので、それを基準に自分で食べ物を探していた。(30歳代、男性) そのためには数字も大事だし、基準より高め低めというのは教育も必要だと思う。栄養に関心を持つという意味では必要だと思う。(20歳代、女性)
06.表示を改善した場合の予想される変化	17.購買行動は変化する	43.評価の高いもの（緑）を選ぶようにする	買ったことがない商品同士で比べるとしたら、全く新しいカテゴリーのものを買うときに緑と黄色のものがあつたら、いい方を選ぶ。あとは価格で選ぶ。(30歳代、男性) 同じ。それだけでは選ばないけど、似たような商品で新商品ならばそれを基準にするかもしれない。(60歳代、女性) 冷凍食品を選ぶときに差があつたら緑のほうを買おうとは思う。自分でも夜遅めになったときはカロリー低めのものを見る。(20歳代、女性) 私はお墨付きに弱いので、健康優良食品みたいなスコアリングのロゴがあるものを手に取ってしまう。お墨付きがなかったら味にそんなに差がなければ緑のほうを選ぶ可能性はある。(30歳代、男性) 自分にこだわりがないものだったら数字のいいものを買うと思う。自分にこだわりがあつて、おいしいものを食べたいと思うものだったらDでもEでも買っちゃうと思う。自分がこの味を知っているからEやDでも買うと思うが、これって長い目で見ると、メーカーは若い人寄りに動いていかないといけないと思うので、全体的に健康志向になっていくのかなと思う。(50歳代、男性)
		44.評価の低いもの（赤）なら気にして参考にする	赤になっていたら、「こんなに多く入ってるんだ」としか思わないかもしれないが、まあ参考にする人はいると思う。砂糖もそうだし、塩分もそう。1日の推奨量を上回らないようにするためにはここは気にするかなと思う。自分もこれから気になる。(50歳代、男性)
		45.評価の低いものなら買う頻度や量が減る	色の表示について、おやつを買おうとしたときに赤が多かったら自分の選択に影響すると思うかものによると思う。お菓子だったらそんなに量いっぱい食べるわけじゃないので、赤くてもおいしければいいじゃないと思うけれど、量をいっぱい摂取するものなら赤はやめておこうと思うかもしれない。それは量やシチュエーションによると思う。(50歳代、男性) 女性がダイエットしようとして頑張っているときに、友だちと集まっているときに飲物やお菓子を持ち寄ってワイワイすることがあるが、そのときに話のタネになるし、気をつけていこうということになっていくのかなと思う。表示が変わったからといってすぐ話題にはならないと思うけれど、まあ必要最低限の情報と、さらなる情報源はあつてもいいのかなと思う。(30歳代、女性)
		46.評価の低いものでも好きな物を食べて他で調整する	好きなお菓子がDやEだったら、減らしはしないけど、他で調整する。野菜をたくさん食べたり運動したりしてうまくやる。(40歳代、女性)
		47.病気になったら評価の低いものは気にする	あとは年齢によつても違うかなと思う。年を取つてきて生活習慣病の認定を受けたりしたら、スナックでは気にする可能性はちょっとある。今は気にしないが。(30歳代、男性)
		18.購買行動は変化しない	48.慣れている商品は赤でも選ぶ
	49.むしろ赤だと分かつて買う		お菓子やインスタント食品は非悪感があるからご褒美みたいな感覚もあるので。逆に真っ赤だからうまいなと思うかもしれない。(30歳代、男性) ジャンクだったら「全部真っ赤だったらむしろ買ってみたい」ということはあるかもしれないが、それをわかっている前提なので。全部赤だったら購買意欲は下がるかもしれないけど、健康意識は上がるかもしれない。食べるときは食べるっていう自分の中のメリハリはつけるかなと思う。(20歳代、女性)
	50.赤でも気にせず買う	50.赤でも気にせず買う	赤でも気にしない。嗜好性が高い製品はわかかつて買うのであまり気にしない。健康寄りの商品だったら選択の基準になるかもしれないが、お菓子はそういうものだとわかかつて買うから気にしない。(60歳代、女性)
私も同じ意見で、ものによつてだと思つ。おにぎりとか主食関係は気にするけど、お菓子やインスタント食品はそんなことを気にせずに味重視で選ぶので、赤でも気にしない。ものによつて認識の差はあると思う。(30歳代、男性)			
自分は買ってしまう。新商品でこれがいいと言われると買ってしまう。任意表示なのに表示をしてくれている会社さんのイメージが良くなつたりする。表示をしている方がイメージはいい。たぶん釣られて買ってしまう。(40歳代、女性)			
19.包装前面栄養表示の導入による副次的効果がある	51.消費者の健康意識が高まる	私はスコアがDでもEでも買うと思う。それを買うことによつてそのお菓子がDとかEということが分かるので、逆に自分の健康意識につながる。気付きもあると思うので、表示はあつた方がいいと思う。(40歳代、女性) A国の4パーセントや7パーセントのパーセンテージの意味はパッと見て、これは1日の摂取量のことだと、ほとんどの人が思うと思うが、その宣伝は必要だと思う。それを宣伝した上でこういう表示をしてやれば認知度も高まると思う。数字が入っていると自分にとってどのぐらい分かるのがいい。単品だとしても分かりやすいかなと思う。(50歳代、男性)	
	52.取り組む企業のイメージがアップする	逆に任意表示なのに表示をしてくれている会社さんのイメージが良くなる。(60歳代、女性)	

インタビュー調査の結果（一般消費者：ふだんの食生活において栄養成分表示を参考にしている者）

論点	カテゴリー	コード	要約文
07.表示を改善したとしても起こり得る課題	20.包装前面栄養表示の位置付けによるコスト	53.表示の位置付けによって良い面も悪い面もある	<p>極端に価格が上がるものではないと思うので、義務表示の方が分かりやすくいいと思う。(60歳代、女性)</p> <p>FOPNL表示は義務、推奨、任意、どういう位置付けがいいかというと、コストって自分たちに返ってくると思うので、あまり表示を増やして高くなるならいらなかなと思う。負担がどれくらい分からないが、1円か2円ならいいけれど、あらゆるものに表示をするようになって、3円4円に上がってきて、そこまでコストに転換させてもしょうがないかなと思う。(50歳代、男性)</p> <p>推奨表示するくらいなら義務表示にした方がいいんじゃないかと思った。推奨表示と任意表示の差にあまり乖離がないなら、飽和脂肪酸と食物繊維は理由があって推奨表示にしているという背景があると思うので、理由があって大事にするならいっそのこと義務にした方がいいと思う。グレーゾーンとか中間は作る必要はないと思う。(30歳代、男性)</p> <p>コスト面を考えたなら考えが変わるかもしれないが、基本的には義務表示にした方がいろんな人の意識も高まると思う。一人一人がちゃんと考えて食品を買うことができるので私は設けた方がいいと思う。コスト面が上がるなら考えが揺らぐかもしれないが、そういうことを考えなければ義務表示の方がストンと買い物できる。1円とか2円なら、分かりやすい方がいい。(40歳代、女性)</p> <p>任意表示なのに表示をしてくれている会社でも、私は疑り深いタイプなので、逆に都合のいい数字だけ表示しているんじゃないかと勘ぐってしまう。本当はトランス脂肪酸はめっちゃ入っているけど、糖質は低いから糖質だけ表示するというのもできる。全部が表示されていたらいい製品だとは思うけど、部分的に切り取って表示されていたら、あまり信用できない。あえて出しているのは売りの部分だけなのかなと疑り方もできる。(30歳代、男性)</p>
		54.義務表示になった場合のコストが心配	<p>FOPNLって前面に出すってことなので、どこにあるかが分かりやすいという意味では私たち消費者には分かりやすくなると思う。でも義務表示にしちゃった方が分かりやすくなると思う。国民の健康促進の意味もあると思うので、それなら多少コストがかかっても義務にした方がいいのでは。100円ぐらい上がるのは別だけど、5円ぐらいならいいかなと思う。(20歳代、女性)</p> <p>FOPNLを義務にして、コストややることに対する反発がどれくらいあるか分からないので、難しい問題だと思う。(30歳代、男性)</p>
21.二次元コードの導入には工夫が必要		55.購入前にやるのはハードルが高い	<p>QRコードは、日常的にプロテインを使っているが、継続的に使うものだったら買った後にやる可能性はあるが、購入前にやるというのはハードルが高い。(30歳代、男性)</p> <p>QRコードでカロリーは見るといいことだが、時間をかけずにパッと見たい。仕事の休憩時間も限られているので、そこまでは見ない。買い物の判断では使いにくい。(40歳代、女性)</p> <p>いちいち買い物をするためにスマホを使いたくないし、時間もかけたくないし、あまり意味がないと思う。バーコードだと触らなくていいというのはあるが、夕方の混んでいるときにやると迷惑だし、そうする気もない。(60歳代、女性)</p>
		56.メーカーのウェブサイトにつながるだけならやらない	<p>メーカーにつながるだけのQRコードだったらあまり活用のしようがないということ。健康のサイトにつながって、今日食べたものの評価が得られるとか、献立とかを考えるときのカロリーの抑え方とか、メーカーが協力して、やりたくなるような全体的な制度として発展するんじゃないかなと思う。(30歳代、男性)</p> <p>QRコードは、一つのサイトにまとめられていたらやろうとは思うけど、企業別になっていたらやらない。一元化されていれば。(20歳代、女性)</p>
		57.二次元コードをやるならインセンティブを導入	<p>もしQRコードでやるとしたら、ポイ活とか、ポイントがもらえるということがあったらやると思うが、何もなしにやらないと思う。自分でいちいち読み込まなくても、売り場でパッと分かる仕組みがあったらいいと私は思う。買った後にやっても、「買ったんだからしょうがない」と思う。買う前だったら「やめておこう」と思える。やるとしたらポイントがつくとかいうのがいいと思う。みんな利益があったらやると思う。(50歳代、男性)</p>
22.むしろ二次元コードの導入は慎重にして欲しい		58.やりにくいのでパッケージで完結して欲しい	<p>QRコードは、見て棚に戻すっていうのもしたくないし、買い物のときに一つ一つ見る時間もない。(30歳代、男性)</p> <p>QRコードはやりにくい。商品のポップや値札のところにA国の表示のような情報があっても、ただコンビニでは値札がついていないものもあつたりするので、そういうものについては課題。(30歳代、男性)</p> <p>私はQRコードはやらない。コンビニにもQRコードがついている商品はあるけれど、一切やったことがない。毎日限られた時間で買い物をしているのでそこまでやる余裕がない。アイデア的にはいいとは思いますが、いちいちスマホを使ってやるのも面倒なのでパッケージで完結してほしい。(40歳代、女性)</p>
		59.コストによって価格が上がるのが心配	<p>QRコードはやりにくいと思うが、義務化になればやると思うが、そうでなければ店側もそれだけコストがかかると思う。任意や推奨だったら大手はやるかもしれないが、コンビニとかはやらないと思う。(50歳代、男性)</p>

インタビュー調査の結果（一般消費者：ふだんの食生活において栄養成分表示を参考にしていない者）

論点	カテゴリー	コード	要約文												
01.現状の栄養成分表示の捉え方	01.全く意識していない	01.カロリーさえも見ない	カロリーさえも見ていない。(50歳代、女性) まわりの友達に似たような人が友達になるのか、買うものの裏を見る人は見たことがない。(50歳代、女性)												
		02.表示の存在は知っているが注視するレベルではない	栄養成分表示は、なんとなく存在は知っているけれど、しっかり注視するレベルではない。(20歳代、女性) 栄養成分表示を目にすることはあるが、中身はそんなに気にしていない。(60歳代、男性)												
	02.知識がないから見たとしても分からない	03.知識がないから見てもそうなんだという程度	お菓子なら砂糖が一番上にきているので、砂糖が多いからやめようということはあるが、たんぱく質がどのというのは知識がないから、見ても「そうなんだ」という程度。(50歳代、女性) 糖やナトリウムもどれぐらいまでしか摂っていけないということも分かっていない。だから何グラムというのを見ても何も響かない。「ああ、そうなんだ」というだけの情報になっている。(50歳代、女性)												
		04.悪い情報は目につくので見る程度	食品表示は一応は見るが、原材料や着色料とか添加物とか変なものが多いからやめようかなと思うくらい。(60歳代、男性) ほとんど見ていない。食べたいものを買に行き行って裏を見て、これが入っているからやめよう、いい成分が入っているからこっちを買うくらい。(50歳代、女性) 悪い情報は目につくから、食塩とか砂糖、摂りすぎちゃいけないものだったら見るかなと思う。あとの栄養成分は見ないかもしれない。摂りすぎちゃいけないものがわかれば見るかなあという感じ。(50歳代、女性)												
		05.身の回りの人が表示を見て、控えることがある程度	配偶者が表示を見て気にするので、「これは塩分が高いから控えて」と言われたらそうしている。(30歳代、女性)												
	03.自分の気になるところは見ている	06.健康成分やカロリーなどは気になるので見る	お茶ならカテキン、コーヒーならカフェインとか砂糖、A菓子ではB成分が入っているのが有名になっているが、そういった健康成分は検索して調べたりする。(40歳代、男性) まわりの友達でも栄養成分をちゃんと見ているというのはあまり聞かない。あるとしても友達がダイエットしているのでカロリーを気にしているというくらい。(20歳代、女性) パッケージに食物繊維とかを強調して売り出している商品は手に取ったり、進んで選んだりする。(20歳代、女性) この製品は栄養成分が豊富ですと前面に売り出している製品だったら注目する。自分はお腹が弱いので乳酸菌や食物繊維を摂らなきゃと思って。今の表示のままだったら見ることはないかなと思う。(20歳代、女性)												
			02.栄養成分表示を見ない理由	05.ネットだと表示されていない	09.ネットで買うので表示を見る機会がない	私はネットで買うことも結構あるが、ネットで買うときはほとんど見ない。加工品こそネットで買うことが多い。(50歳代、女性)									
			06.気にしていない	10.そもそも関心がない	11.そこまで気が回らない	12.何を買うか決めているので判断材料にならない	13.病気がないから関心がない	14.人生長く生きてきたので今更気にしない	15.外食では楽しむためにあえて見ない	16.よく分からないので食べたかったら食べる	17.裏面をひっくり返してまで見ない	18.ひとつずつ見るのは面倒	19.文字が小さすぎる	20.パッケージの色に対して文字の色が見にくい	21.知識がなく見ても分からない
	もともと健康を気にしない人は表示をどう工夫しても、そもそも関心がないから見ないと思う。普段から健康志向とか、病歴のある人だったらより詳しい情報が欲しいと思う。(20歳代、女性)														
	同年代の小さい子を連れてお母さん・お父さんが買い物をするときにこういうところまで見るかということ、そんなところまで気が回らないと思う。(30歳代、女性)														
ほとんど見ない。何を買いに行くか決めて行っている、こういう表示があるからこの商品を買わないということはない。(30歳代、女性)															
父母みたいに具合の悪い人に買うときだけは見たりすることがある。健康診断で引っかかったら見るとは思うが、今の状況だったらどこがどう変わっても見ることはないかなと思う。(50歳代、女性)															
今まで何も気にせずに60年生きてきて、今更気にして20年生きる必要があるのかなと思う。今更気にして生きていこうという人はいない。(60歳代、男性)															
外食は外食でごはんを楽しもうとしているのでカロリーや食塩は見ない。(50歳代、女性)															
食塩についてもあまり知らない、何グラムであったとしても、食べたかったら買う。(50歳代、女性)															
商品によって書いてある部分が表面ではなくて裏面に書いてあることが多いと思うが、その場でそれをひっくり返して見ることはあまりない。(30歳代、女性)															
商品を1個1個手に取って、裏を見ていくのはなかなか。(40歳代、男性)															
QRコードがあれば、QRコードでWEBの情報をわざわざ見るかということ、そこまでの必要性は感じないし面倒くさい。(30歳代、女性)															
私も文字が小さいというのが第一にあると思う。(40歳代、男性)															
パッケージと文字の組み合わせも見にくいものが多い。赤で黒だと「もういいや」と敬遠しがち。(30歳代、女性)															
表示も黒とか薄いブルーで、あまり際立っていないので印象が薄い。見ない人も多いんじゃないかと思う。(40歳代、男性)															
自分自身に知識がないので、見ても活用できない。(20歳代、女性)															
栄養に対する知識がないし、カロリーや栄養量を見ても、それが標準より多いのか少ないのか分からない。見ても分からないから最初から見ることはない。(20歳代、女性)															
1日分の何パーセントという表示があればありがたいけど、塩何gと書いてあっても、それが1日の推奨される量のどのぐらいか分からない。(60歳代、男性)															
全く見ないわけではないが、理解していないので、欲しい商品そのまま購入することが多い。(30歳代、女性)															
私は健康に興味がないわけではないので、腹落ちすれば小さくても見に行くと思う。なので、これを食べれば1日のたんぱく質の半分が摂れるとわかれば、今日はこれで半分かと理解するかなと思う。(50歳代、女性)															
表示により摂取を推奨しているのか抑止しているのか分からない(50歳代、女性)															
栄養成分表示が義務化された背景がよくわかっていないのかもしれないが、体に悪い成分を必ず載せるために義務化されたのか、たんぱく質等を知った方が良いために義務化されたのかがよくわかっていない(50歳代、女性)。															
自分の8割のほうで計算できていないのに、2割で一生懸命計算をしても所詮違う。だからあまりいろいろ載せても結局は見ないかなと思う。(50歳代、女性)															
たんぱく質は加工食品ではなく、こういう表示がないものから摂っているが、ここで急にそれを出されてもあまり役に立たない。(50歳代、女性)															

インタビュー調査の結果（一般消費者：ふだんの食生活において栄養成分表示を参考にしていない者）

参考資料 6-2

論点	カテゴリー	コード	要約文	
03.栄養成分表示が分かりにくい原因	11.表示が不親切	24.やっぱり文字が小さく文字数が多い	やっぱり文字が小さいとか文字が多いってことだと思う。(20歳代、女性) 自分はこの細かい表示だと見にくいと思う。(40歳代、男性)	
		25.文字の色が見にくい	同年代の人とこういった表示に関して会話することがないので、同年代の人がどう考えているかは分からないが、文字の見にくさは感じているとなんとなく思う。文字が小さいのと同じような色だと目立たなくてよく分からない。(40歳代、男性) やっぱり文字が見にくいってことだと思う。(20歳代、女性)	
		26.ゴチャゴチャしていてパッと分からない	まず成分表示の文字が小さい。裏面にゴチャゴチャ書かれていてもパッと見分からない。(40歳代、男性) 年齢的に文字が見れないレベルでないけど、ゴチャゴチャしていて情報が入ってきにくいというのは感じる。(20歳代、女性) 文字情報だけだと、長くてゴチャゴチャしすぎてパッと理解できないのかもしれない。例えばナトリウムとか食塩は分かるけれど、それ以外にゴチャゴチャ書いてあるのはパッと見て分かりづらい。(40歳代、男性) 項目が多いということもある。エネルギーは先頭に書いてあるので分かるが、全部は瞬時には分かりづらい。(40歳代、男性) 購入した商品の裏面を確認している人はいない。(50歳代、女性)	
		27.食べる量で表示されていない	最初から、これ1個買ったら何グラムという表示でやらないと、自分で計算しなきゃいけないので、それは消費者の負担になってくる。(60歳代、男性)	
		12.栄養素と数値の意味が分からない	28.栄養の知識がなく何なのかよく分からない	カルシウムは良さそう、マグネシウムとカリウムは自分に必要なかわからないのかわからない。なぜここに載せているかわからない。飽和脂肪酸は摂った方がいいのか、悪いから載せているのかどうかわからない。(50歳代、女性) 例えば飽和脂肪酸、トランス脂肪酸がよくないというのは分かるが、実際なんなんだろうと思う。他のたんぱく質やナトリウムは理解できるけど飽和脂肪酸が体に悪いのか何なのかよく分からない。(60歳代、男性) 量が多いのか少ないのかも分からないし、これが自分にどれくらい必要かも分からない。一つ一つに対しての知識が曖昧。これは摂りすぎると糖尿病になるだろうなという感じの曖昧な認識。(20歳代、女性) 先頭のエネルギーとか、たんぱく質とかナトリウムとかまではわかって、言葉のイメージはなんとなく分かるけど、一つ一つの単語が長いので、見ていて把握しづらいというのはある。(40歳代、男性)
	29.栄養成分の数値だけ出されても多いか少ないかわからない	外国の例を見ていいなと思ったのは、ハイとかローとか、砂糖が多い少ないというのが視覚的に分かりやすい。栄養を数字だけ出されても、多いか少ないのかわからない。(20歳代、女性)		
	30.自分の体の健康と栄養成分の数値が結びつかない	「塩分を摂りすぎたらこういう病気になるのかなあ」ぐらいの感じ。他のものは摂りすぎたら自分にどういう影響があるのかわからないので、それを数字で表されても「ヤバい」と思えない。(30歳代、女性) たんぱく質は筋肉のために必要とか、食物繊維はお腹の調子を整えるのに必要って曖昧な認識。炭水化物とかカロリーは摂りすぎるといけないけど、不足するのよくない。そもそも自分の体の状態の数値を知っておかないとこにつながらない。(20歳代、女性)		
	04.分かりやすい表示にするための改善案	13.親切な情報提供	31.1回に摂取する目安量で表示する	メーカーとして義務だからやっているんだと思うが、そういうのが見えてきているんじゃないかと思う。パッケージの量に応じてやっていかないと消費者に対して親切じゃない。(60歳代、男性)
			32.数値が必要な人もいて、数値を残す	各栄養素の表示も持病がある方や健康意識の高い人もいると思うので、ここは残しておいて。この細かい数字が必要な人もいだろうから残した方がいい。(40歳代、男性)
			33.食品の種類によって表示するものを決める	成分表示は水だったら関係ないけど、インスタント食品や加工食品にはこの5つは義務として書かれているんですね。そうしたら外国の方法でこの5つをつけるのはいいと思うが、この数値を見て水の場合は購買意欲はそんなに変わらない。食品のカテゴリーによってつけるラベルを変えた方がいいんじゃないかと思う。(60歳代、男性)
14.包装前面栄養表示で一目で分かりやすい表示		34.項目を厳選しアイコン化する	34.項目を厳選しアイコン化する	外国の例はエネルギーとかシュガーとか、今までの複数の栄養素をギュッと縮小して分かりやすくアイコンにしている。それだけでもゴチャゴチャ書いてある表示よりは格段に分かりやすい。(40歳代、男性) 同年代の人と栄養成分の会話をするのはほとんどなくて、せいぜいコーヒーのカフェインについて。なので細かい表示よりはアイコン化されたカテゴリー表示の方が消費者にとって分かりやすさにつながるんじゃないかと思う。(40歳代、男性) 複数の栄養素を全部アイコン化してしまうと情報量が増えて多くなって見づらくなってしまふので、外国のようにファット、シュガー、ナトリウムとか、ある程度カテゴリー化したやつに絞って表示するのはアリじゃないかと思う。(40歳代、男性)
			35.アイコンは統一する	今まで消費者庁さんがこういったかたちで表示するとルールとして決められているので、それをメーカーが独自にアイコン化をいろんなかたちでやってしまうと消費者も混乱してしまう。メーカーさん独自で決めるのではなく、ルール化して同じような表示方法に統一してくれた方が消費者として分かりやすいかなと思う。(40歳代、男性)
			36.カラフルにしてパッと分かりやすく	色もだいたい黒で、他の原材料と区別されていない感じがする。視覚的にパッと一目で分かるデザインが欲しいなと思う。(20歳代、女性) あとは色。水のペットボトル飲料は水色で平坦なので、パッと見分かりづらい。緑とか赤とか、カラフルにすればもうちょっと注意喚起、分かりやすくなるのかなと思う。(40歳代、男性) 視覚でパッと目に入ること。摂りすぎだから危険だとか。それが数字だけの羅列はそっけない味気ないし分かりづらい。視覚で一発で分かる方が伝わりやすいと感じた。(30歳代、女性) やはり外国の例のようにアイコンみたいなやつ。これだとハイ、ミディアム、ローと3段階で分かりやすいし、かつ色も強調されている。赤だったらかなり多いんだということが視覚的に一目で分かる。(40歳代、男性)
		37.1日の必要量に対するパーセンテージを表示する	37.1日の必要量に対するパーセンテージを表示する	赤だったら買わないとか、1日に必要なパーセンテージとか、読み進めていくというより、一目見て視覚でパッと認識できる方が見やすいのかなと思う。(30歳代、女性) 外国の1日のパーセンテージは年齢や性別によって多少の誤差はあるかもしれないが、一般的な成人男性のパーセンテージで示すのは可能だと思う。(40歳代、男性) 先ほどの話に出たように側面に諸外国のようにアイコン化した1日あたりのカテゴリー表示を載せるといいと思う。(40歳代、男性) 色づけて赤にしてしまうと簡略化されてしまうので、白黒で何パーセントという数字が出ているのが一番分かりやすい。(60歳代、男性) 1日の半分のだんぱく質とか、1日に必要な量の情報はあった方がいいかなと思われれば、それはあったら分かりやすい。そうしたら夜にまた半分食べなきゃと思える。(50歳代、女性)
			38.表示の場所を決める	今の商品は書いている場所がまちまちなので、ここならここ決めてくれた方が、ここに書いてあるから見ようという気になると思う。(30歳代、女性)
		39.正面だと購買意欲が湧かないので、サイドに表示する	逆に正面にやってしまうと、購買意欲が高まらない。むしろ正面よりはサイドにあった方が購買意欲を損なわないんじゃないかと思う。(40歳代、男性)	
		05.パッケージ以外の取り組み	15.必要性に応じた適切な情報提供	40.さらに必要な情報は二次元コードで表示する
41.知りたい人とそうでない人を分けて情報提供する	私も健康を意識する人には詳細な情報は必要だと思う。でも国としてはみんなに知ってもらいたい情報があると思うので、一般用と、さらに詳しく分かる用の2つがあってもいいと思う。(30歳代、女性) 合わせ技というか、一目で知る情報と詳しく知るQRコードの両方を載せた方が無難というか。詳しく知りたい人にQRコード、パッと見て知りたい人用には簡易的な情報。その両方を載せちゃうのがいいんじゃないかなと思う。(20歳代、女性)			
42.二次元コードを使い食事管理アプリに活かす	QRコードであつたら、私はカロリー摂りすぎたのかなという感じで、見ると思う。そうしたら認識が広がるんじゃないかと思う。(60歳代、男性) ここにQRコードをつけて、そこから自分の年齢、身長、体重を入れたら、これ1本でエネルギーがどれだけこうなっているということが分かるといいんじゃないか。QRコードで自分の個別の情報を取りに行くといいのでは。(60歳代、男性)			

インタビュー調査の結果（一般消費者：ふだんの食生活において栄養成分表示を参考にしていない者）

参考資料 6-2

論点	カテゴリー	コード	要約文
06.表示を改善した場合の予想される変化	16.消費者の意識が高まる	43.話題になり健康意識が高まる	女性がダイエットしようと頑張っているときに、友達と集まっているときに飲物やお菓子を持ち寄ってワイワイすることがあるが、そのときに話のタネになるし、気をつけていこうということになっていくのかなと思う。表示が変わったからといってすぐ話題にはならないと思うけれど、まあ必要最低限の情報と、更なる情報源はあっていいのかなと思う。(30歳代、女性)
			今までここを見なかった人も側面にアイコン化した情報があると「これなんだ?」と思ってカロリーやナトリウムも見るとなると思うので、もしかしたら消費者としても意識が高まるのかなと思った。(40歳代、男性)
	17.購買行動が変化する	44.評価の低いもの（赤）は購入する頻度を減らす	私は買う頻度が減るかなと思う。赤いと身構えてしまうと思うが、食べたい欲求は変わらないのかな。毎週買っていたものが、赤マークだから月1～2回にしようと思えば変わるかもしれないが、全く買わないということはないと思う。(30歳代、女性)
			自分のような消費者が買うときに赤い表示を見たとして、それを無性に食べたかったら買うかもしれないが、日常で買うことを考えると、罪悪感とか自分の体調を考えて選ぶ商品を変えるっていうのは確かにあるなと思った。(20歳代、女性)
		45.評価の低いものはストックしなくなる	家に備蓄するものは菓子Bでも違うものを買うかなと思う。(50歳代、女性)
	18.今までと変わらない	47.買う頻度は変わらない	食べたいときに買うけれど、ストックはしなくなると思う。赤マークがついたものを家に置くのはやめて、どうしても食べたいときはコンビニに買いに行く。(50歳代、女性)
46.評価の低いものは買わない			でも塩分に赤いマークのお菓子があったら、私はそれを買わない気がする。(50歳代、女性)
07.表示を改善したとしても起こり得る課題	19.表示方法を変えることで起こり得る課題	49.表示を増やすことによるコスト・値上がり心配	全部赤になっていたら買うときに悩んで買えなくなってしまうと思う。(50歳代、女性)
		50.義務か任意にするかで良い点と悪い点生まれる	自分分は買う頻度は今までと変わらないと思う。シュガーがハイとなっていて普通に砂糖入りの缶コーヒーも買っているし、微糖も買っている。これがタバコみたいに毒々しく「健康を害します」と太字で書いてあったら激減すると思うが、自分の中で缶コーヒーはおいしくて買っているの、買う頻度は変わらないかなと思う。(40歳代、男性)
			もう余生が短いので好きなものを好きなだけ食べたいと思うので、どっちでもいい。(60歳代、男性)
	20.表示方法を変えること以外での課題	51.パーセンテージ表示は基準が人によって違う	表示することが必要になってくると値段が上がったらどうかというジレンマがある。メーカー側もやろうと思えばやれると思うが、コストとのバランス。その辺は難しいと思う。(60歳代、男性)
			ゴチャゴチャやるとメーカーに負担がかかって商品の値段に跳ね返ってくる。それを見たくない人が大半だと思う。そのために10円上がったら賛成する消費者は少ないだろう。(60歳代、男性)
		52.インセンティブがないと二次元コードは見ない	お菓子も食べるけれど、毎日毎日ではない。食べたければ食べる。全然気にしない。それよりもお酒の方がダメじゃないかと思う。(60歳代、男性)
53.二次元コードの情報は見ないと思う	52.インセンティブがないと二次元コードは見ない	任意表示か義務表示かで言えば、表示している企業というのは消費者に対して健康を気遣っているいいメーカーだ、逆に何もやらないメーカーは安かろう悪かろうでやっているメーカーだという感じで、消費者側の一つの判別になる。(60歳代、男性)	
		FOPNL表示は義務、推奨、任意、どういう位置付けがいいかという、コストって自分たちに返って来ると思うので、あまり表示を増やして高くなるならいらぬかなと思う。負担がどれぐらいか分からないが、1円か2円ならいいけれど、あらゆるものに表示をするようになって、3円4円に上がってきて、そこまでコストに転換させてもしょうがないかなと思う。(50歳代、男性)	
	54.包装前面栄養表示をしても見ない人は見ない	パーセントがパッと前に書かれていたとしても、個体によって違うというか、それは男性と女性でも違うと思う。その基準がどこになるか。そのパーセンテージの基準となる人体は年代によっても違うと思うので、難しいところ。(30歳代、女性)	
		QRコードで詳しい情報が見られるというのはやらないと思う。メリットがないので。それでポイントがつくとか、コストバックがあるならやるけれど、そこまでして知りたいとは思わない。それだったらその栄養成分をネットで検索すると思う。(40歳代、男性)	
	55.消費者への啓蒙が大事だと思う	健康成分が強調されていたらネットで検索することはあるが、QRコードに身長体重を入れるということまではしない。栄養成分で強調されているものについては興味があって、ネットで自分なりに調べることはある。(40歳代、男性)	
55.消費者への啓蒙が大事だと思う	54.包装前面栄養表示をしても見ない人は見ない	QRコードも健康志向の人ならありがたいと思うけれど、健康に興味がない人ならそもそもQRコードも見ないと思う。ターゲットをどこにするかでアプローチが変わってくるので難しいと思う。(20歳代、女性)	
		この表示がこのままのかたちで表面に来ても見ない。(60歳代、男性)	
	このままだと位置が変わったなという意識にしかならない。(20歳代、女性)		
55.消費者への啓蒙が大事だと思う	55.消費者への啓蒙が大事だと思う	前面に表示を付けても読まないだろうなと思う。そもそも知識がない、分りにくいというのが前提があるので、この位置が変わったとて注視することはないだろうなと思う。(20歳代、女性)	
		一般消費者にどうやってこれを啓蒙していくか。僕は義務化したことすら知らなくて、いつの間にかこうなっていたが、そういう方が大半だと思う。(60歳代、男性)	
	普通の人は見ないのは仕方がない。それを啓蒙するにはお金をかけないと。税金を使っていけないと厳しいのかなという感じがする。(60歳代、男性)		
		そうするとインフルエンサーみたいな人が「こうやったら見れるんだよ」「それだったら見てみよう」と。このままだったら、「見て」と言われても響かない。(60歳代、男性)	

インタビュー調査の結果（管理栄養士）

論点	カテゴリー	コード	要約文	
01.食品表示との関わり	01.栄養成分表示をよく見る	01.エネルギーと食塩を中心によく見る	栄養成分表示は、加工食品だとよく見る。特にエネルギーと食塩を見る。 管理栄養士なので表示はよく見る。だが、エネルギーと食塩をよく見るくらいで、そのほかの栄養成分はあまり注力して見ることはない。	
		02.物によってはたんぱく質や糖質も見ると	栄養成分表示は、エネルギーと食塩をメインによく見る。たんぱく質も物によって見る。コンビニではローカーボのパンも売っているので、そういう時には、糖質がどれくらい入っているのか、見ることもある。 運動を始めたので、たんぱく質をよく見て、加工食品を選ぶ判断材料にしている。脂質や炭水化物はあまり見る機会はない。 お弁当・おにぎりでは食物繊維、野菜ジュースではビタミン・ミネラルを見る。	
	02.食品選択の判断材料にしている	03.表示をよく見て、商品を選択するための判断材料にしている	コンビニだと、食物繊維を表示している食品が多いので、弁当とかおにぎりを買う時には、見て、判断材料にしている。 野菜ジュースでは、ビタミンやミネラルも表示されているので、味で選べない時には、栄養成分表示を見て、比較して、選ぶようにしている。 食塩をよく見る。昼食をコンビニで購入するので、1食食塩を2gにおさめるにはどうすればいいか選ぶ判断材料にしている。	
		03.その他の食品表示もよく見る	04.原材料や期限表示、価格など他の表示もよく見る	管理栄養士の職業柄、栄養成分表示も確認するが、期限表示や原材料表示、そして値段もよく見る。 物によっては、原材料にどういう物が使われているか気になるので、よく見る。
	04.仕事に活かすためによく見る	05.腎臓病患者さんなどによく聞かれるのでよく見るようにし、仕事に活かしている	スーパーへ行くと、たんぱく質をよく見るようにしている。仕事の中で、腎臓病患者さんに、「たんぱく質の少ないおやつは何か？」とよく聞かれるので、スーパーでよく表示を見て、探している。	
02.栄養成分表示が分かりにくい原因	05.100gでの表示は誤解を生む	06.100gの表示なので換算するのが面倒	どういう意図で事業者さんが100g当たりの栄養成分表示をしているのか分からないが、消費者としては、1個当たりでの表示が使いやすいと思う。 一般消費者が一度換算しないといけない栄養成分表示は難しいと思う。特に内容量を書いていないと100g表示では使えなくなってしまう。 100gや100mlの表記だと、1食に食べる量での栄養成分量に計算しなくてはいけなくなってしまう。消費者の立場からすると分かりづらいつと感じる。1回に食べる量でどのぐらいか、見てすぐ分かる数字に変えた方が良いと思う。	
		07.精神疾患や障害者、認知症の方などは100g表示だと誤解する	精神疾患や知的障害、認知症をお持ちの方は、100g表示の食品を1袋当たりでの量であると勘違いされる方もいるようなので、配慮が必要だと思う。	
		06.弁当や総菜の表示はないか、あっても見にくい	08.店内加工の食品には表示されていないこともある	スーパーの総菜など店内加工の商品では栄養成分表示をしなくてもよいことになっている。
	07.制度が複雑なので分かりやすくすることが困難	09.ラベラーの性能の限界で表示が小さく見えづらい	09.ラベラーの性能の限界で表示が小さく見えづらい	スーパーの総菜は、裏面に書いてあったり、ラベルに小さく書いてあったりするので、見づらいし、見つけにくいと思う。 お弁当や総菜などは、商品をひっくり返すことができないのに、裏に表示があるので、下から覗き込むようにしている。不便だし、下から覗き込んでいちいち見るのは、面倒だと感じる。
			10.栄養強調表示は複雑なので、混乱を招いている	糖質と糖類の違い、ノンとかオフトか、現状の強調表示は消費者にとって混乱を招いていると思う。なので、もう少し工夫した方がいいと思う。
		11.直売所などの小規模の事業者には分かりやすさの工夫を求めるのは難しい	大手だったら、お弁当や総菜だったら1食当たりや1パック当たり、調味料も大さじ1当たりで表示しててすごく分かりやすいと思う。特に直売所などの課税事業者で表示が必要なところは、頑張って表示しているけど、分かりやすいところまでの工夫を求めるのはとても難しいと感じる。	

論点	カテゴリー	コード	要約文
03.栄養成分表示を分かりやすくする工夫	08.表示の見た目の改善	12.文字は小さいよりは、大きいほうが色々な人にとって良い	パッケージの大きさによっても違うとは思いますが、文字は小さいよりは大きい方が色々な世代にとって分かりやすいと思う。
		13.栄養成分表示は横書きにして枠で括る	栄養成分表示も縦書きのものもある。そうすると見にくいので、横書きにしたり、枠で囲ったり、基本の文字サイズが決まっていたり、書き方の統一をすともっと見やすいと思う。 栄養成分表示も枠で囲っているものもあれば、そうでないものもあるので、分かりにくくなっていると思う。栄養成分表示の書き方も統一されるとより分かりやすいと思う。
		14.適切な位置で改行する	改行されていないで、表示されている栄養成分表示は、文字が羅列してあるように感じる。そうすると見にくい度合いもさらに高まる。改行も適切にされるだけでも、栄養成分表示が見やすくなると思う。
	09.1個当たりと100g表示、それぞれのメリット	15.1個当たりでの表示にする	100gや100ml表示だと分かりにくいし、間違えてしまうので、1個当たりで摂取するものは、1個当たりで表示した方がいいと思う。
		16.100g表示だと商品を比較しやすい	100g当たりで表記されている栄養成分表示は分かりやすい点もあり、商品比較の時には使いやすいと思う。 100g当たりの栄養成分表示は、掛け算、割り算が単純で容易。
		17.1日の必要量に対する割合を示す	外国の取組のように、1日に対する割合が表示されていると、選ぶときの参考になると思う。 1日の必要量に対する割合は、栄養相談で適切なアドバイスをする時にも役立つので、あった方がいいと思う。
	10.必要量に対する割合を示す	18.1日の必要量に対する割合の表示は、グラフで表示する	1日の必要量に対する割合の表示は、円グラフなど図式化して表示できると面白そうかなと思う。食生活の改善に取り組んでくれる人も増えるのではないかなと思う。
		19.ターゲットを決め、ターゲットの食事摂取基準に対する割合で表示する	対象となる人（ターゲット層）の食事摂取基準当たりで表示すると伝わりやすく、活用されやすいと思う。 食堂では、喫食するターゲット層を絞って、ターゲット層の必要量に対する量で表示することがある。食品のよく喫食される人のターゲット層を絞って、1日の必要量に対する表示をすると分かりやすいと思う。
		20.食塩6g/日や野菜350g/日など全世代共通のものは基準量に対する割合で表示する	食塩の6g/日や、野菜の350g/日など全世代共通の基準があるものについては、その基準量の表示や、1日の基準量に対する割合の表示があると分かりやすいと思う。
		11.対象となる食品や栄養成分を見直す	21.食品のジャンルによって表示の細かさや情報量を変える 乾燥野菜や乾物など、実際は調理しないと使わない物に対しても義務表示にされているが、消費者の方に活用できるような表示には、実際のところなっていないと感じる。商品のカテゴリーによって、表示の細かさや情報量を変えた方がいいと思う。 22.高血圧や腎臓病など、気をつける人もいるのでカリウムを追加 カリウムについては、積極的に摂ってほしい人も、控える人もいるので、栄養成分表示に加えてもらえると助かる。栄養相談するときにも役立つ。 カリウムは、高血圧の方には積極的に摂ってほしいので、栄養成分表示にあったら嬉しいと思う。あとは、食物繊維もあたらいいと思う。 カリウムは、腎臓の悪い方だと制限が必要になるので、表記されていると便利だと思う。
	12.ラベラーの性能を上げる	23.ラベラーの性能を向上させる ラベルを作る機械のメーカーさんに努力してもらい、ラベラーの性能をあげてもらおうと栄養成分表示のできることも増えるので、そのような取組をして欲しい。	
	13.弁当や総菜にも表示をする	24.弁当や総菜など店内加工の食品には必ず栄養成分表示をする 全ての食品に栄養成分表示をするのは難しいと思うので、お弁当とか総菜とかそうしたものはしっかりと表示するようにした方がいいと思う。 店内調理の食品についても、全ての表示を義務化するのには難しいと思う。栄養成分表示とアレルギー表示など、ある程度絞って、段階に分けて義務化した方がいいと思う。	
	14.包装への表示以外で情報提供する	25.バーコードでスキャンして栄養量が分かるようにする	パッケージをスキャンして栄養素の量が分かるようになる仕組みがあると、栄養成分表示を活用するのが面白くなり、食生活の改善に取り組んでもらえるようになると思う。
		26.二次元バーコードで情報を提供	二次元コードやテレビコマーシャルなどで、栄養や食品表示に関する啓発活動があると栄養成分表示が分かる人が増え、適切に活用されると思う。
		27.栄養成分表示の表記方法を統一するのは難しいのでPOPで情報提供する	小規模事業者さんも含めて栄養成分表示を全部統一するのは難しいと感じるので、POPなどを使って、消費者に訴えていく方法もいいと思う。 小売店の協力も必要になるとは思うが、販売されるときPOPで追加的な情報提供や表示もあると更に分かりやすいと思う。
15.適切な利用につなげる取組をする	28.栄養素必要量を計算できるアプリを開発する	1日に必要な栄養素の量は、食塩ならある程度一定の量になるが、その他の栄養素は、人によって違うことが多いと思う。だから、1日に必要な量を簡単に計算できるような仕組みや、1日食べたものが記録されるようなアプリなど、そういう方法も考えていく必要があると思う。	
	29.専門家への相談につなげる一文を表示する	経口補水液は「医師・薬剤師・管理栄養士にご相談ください」という一文があり、専門家につながっている可能性もあるので、他の食品も管理栄養士などの専門家への相談につながるように、誘導する一文を付け加えると良いかもしれない。	
04.包装前面栄養表示の表示方法	16.包装前面に分かりやすく表示する	30.意識していない人も見るようなパッと見て分かりやすい表示	意識している人しか見てもらえない表示ではなく、意識していない人でも目につくような場所に、前面に、文字のポイント数も今より大きくして、パッと目につくような表示が必要だと思う。 パッと見て分かる表示は、栄養成分表示を見ない人も表示を見るようになるなど、教育的な意義もあると思う。 お弁当や総菜など、一日の食事で大きな割合を占める食品には包装前面栄養表示をするとよい。
		31.前面で完結した表示	加工食品を見ただけで、自分にこれくらい必要で、この食品を摂るとどのぐらいなのか分かるような表示は、前面で完結した表示である方が、利用者にとっては分かりやすいと思う。
	17.書き方を統一する	32.統一された書き方にする	前面に表示するという場所の統一というよりは、表記方法の統一が必要だと思う。 メーカーの任意表示でされている前面の栄養成分表示は、数字なので分かる人は分かると思うが、分からない人にとっては、ただ数字があるだけになってしまっているの、統一された書きの方が分かりやすいと思う。
		33.色で表示すると捉え方が人によって違うので統一したマークにする	統一したマークがあると、分かりやすいと思う。 食塩など全世代共通の基準がある栄養素に対しては、統一したマークがあると分かりやすいと思う。赤で表示するのが良い評価なのか、悪い評価なのか人によって捉え方が違うので、カラー表示は誤認されてしまう場合もあるのではないかなと思う。 栄養成分表示は、枠で囲ってあるものとそうでないものがあるなど、書き方が違うことで分かりにくいと思う。諸外国のような、マーク化してあった方が分かりやすいと思う。統一した形にすると分かりやすいと思う。
		18.食塩に特化する	34.食塩は国全体で取り組む課題なので食塩に特化する 減塩については、行政も含めて取り組んでいるので、食塩の多い食品については義務付けて、注意喚起するような表示が必要だと思う。 食塩については、人によって必要量が大きく異なることもないので、他の栄養素と違って、包装前面栄養表示に向いていると思う。そうすると注意している人にとっては、ありがたい表示になるし、気をつけていない人にとっては、いい気づきにつながると思う。
	19.給食でも表示する	35.食堂の給食メニューにも付け、普及・啓発につなげる 食堂でも包装前面の栄養表示がうまく活用されれば、食堂の利用者の判断材料になったり、よりよい活用につながると思う。 包装前面栄養表示のある食品は、給食のメニューにも付けることができると、普及啓発にもつながると思う。そのためにも、統一したマークが必要だと思う。	

インタビュー調査の結果（管理栄養士）

論点	カテゴリー	コード	要約文
05.包装前面栄養表示導入時の専門家から見た懸念事項	20.色での表示は難しい	36.色での表記は人によって捉え方が違う	包装前栄養表示は、色での表記をすると、人によって捉え方が違うので、あまり向いていないのではないかと感じる。
		37.色での表記はカラー印刷できる業者ばかりではない	包装前栄養表示は、カラーで印刷できる業者ばかりではないので、色での表示は難しいと思う。
	21.小規模の事業者では表示が難しい	38.小規模の事業者では統一したマークですら難しい	事業者さんの規模によっては、表示場所や表示の形、表示方法を全部統一するというのは、とても難しいと感じる。統一のマークは、分かりやすいとは思いますが、統一したマークの表示でさえ、小規模事業者は難しい場合もあると思った。
		39.1日の必要量に対する割合表示のグラフは小規模の事業者では難しい	栄養成分表示の量が計算していればできるが、そもそも成分表示もしっかりとできていない業者も多い。栄養成分表示をグラフ化するのは、難しいかもしれない。それよりは、パーセントでの表示の方がやりやすいと思う。
			円グラフで1日の必要量に対する割合を表示するのは、とても分かりやすいと思った。だが、小規模事業者さんにそこまで求めると実行できるか心配になった。
	22.スコアや基準量は人によって異なる	40.スコア型の表示は誰にとってのスコアか分かりにくい	包装前面栄養表示の方法は、スコア型の表示は、誰にとってのスコアなのか分からないので、望ましくないと思う。
		41.1日の必要量に対する割合の表示は、基準量がそれぞれ違い、逆に分かりにくい	1日の必要量に対する割合の表示は、年齢や性別によって一人ずつ違うので、逆に分かりにくくなるかもしれない。
	23.購買意欲が低下する人もいれば、変わらない人もいる	42.統一された栄養成分表示は堅苦しく、購買意欲が落ちるかもしれない	でも、枠に囲まれた栄養成分表示が前面にあるのは、ちょっと堅苦しいと感じる。買う時の購買意欲が落ちるかもしれない。今メーカーで独自にされている前面の栄養成分表示はそこまで購買意欲が落ちることはないと思う。
		43.購買意欲は変わらないか、むしろ比較するときにあるとよい	前面の栄養成分表示は、購買意欲が変化するかというと、あまり気にならないと思う。むしろ比較する時にあるといいと思う。
	24.栄養成分表示があまり役立たない食品がある	44.弁当など1食で食べる物でなければ、栄養成分表示はあまり役立たない	1食で食べるものであれば、栄養成分表示や1日の必要量に対する表示が役立つと思うが、いろいろな物を組み合わせたりして摂取するものでは、あまり役立たないと感じる。
25.不適切なPOPが生まれる	45.POPでの表示は自由度が高くなりすぎ、不適切な表示が生まれやすい	POPでの表示は、現状では「何々に効きます」という表示がある。あまりよくない表示もあるので、POPでの表示は逆に難しいと思う。統一されたPOPやパッケージにもあるが、それをPOPにも表示するなどの方法であればいいが、自由になってしまうとよくない表示がされることにつながりかねないと思う。	
06.栄養成分表示が正しく活用されるための方策	26.普及・啓発活動の実施	46.小さい頃からの栄養に関する教育	栄養成分表示が分かるようになるためには、小さい頃から栄養に関する教育が大事だと思う。
		47.消費者への教育	栄養に対する啓蒙、教育を充実させていかないと分かりやすい栄養成分表示にはならないと思う。
	27.教育すべきことの具体	48.控える物や積極的に摂るべき栄養素の知識	消費者の栄養成分に対する理解度が低いと感じる。書いているものを見て、どうやって気をつけたいか、自分にとってこの量が多いのか、それとも少ないのか、書いてあっても分からないし、そうすると興味がなくなってしまうのではないかと感じる。 栄養成分表示を見ても、飽和脂肪酸は控えるとか、食物繊維だと積極的に摂るとか、知識のない方だと、それすら分からない場合もあると思うので、やはり知識の普及や啓発が大切なのではないかと思う。
		49.個々人に必要な栄養量	たんぱく質は、積極的に摂りましょうという認識が、世間に広まりつつあるように感じる。でも、高齢で腎臓の悪い方もいるので、たんぱく質を積極的に摂らないでほしい場合もある。一人ずつに適切な栄養量を知ってもらえるようにどのようにアプローチしていくかは、課題だと感じる。 たんぱく質の積極的な摂取は、メーカーさんは積極的に摂った方がいい人や健康な人向けに表示をして、販促に繋がっていると感じるが、実際には積極的に摂らない方がいい人もいて、どのようにして個々人にとって必要な量を摂取してもらえるようになるかは、課題だと感じる。
		50.表示の使い方	栄養成分表示を見ても消費者が利用の仕方が分からないと、ただあるだけになってしまうので、1日当たりでどのくらいが必要な量であるか書いてあるとか、使い方をもっと分かりやすく消費者に伝えていけるといいと思う。消費者の理解を進める必要があると思う。

インタビュー調査の結果（食品関連事業者）

論点	カテゴリー	コード	要約文
01.食品表示との関わり	01.よく見て参考にしている	01.他社の表示が参考になるのでよく見る	食品輸入の会社に勤務し、食品表示を担当している。大手と違い、食品表示の担当者は数名しかいないので、スーパーで大手の食品メーカーの表示を参考にしている。 自社の各部門からパッケージの相談を受けるので、他社のパッケージが気になる。いつも興味津々で食品表示を見ている。 多岐にわたるカテゴリーの商品を扱っている加工食品メーカーに勤務し、法令担当をしている。食品表示は、職業柄見る癖がついている。一括表示は大体みんな同じだが、いわゆる親切表示といわれる任意表示の部分をよく見る。他社に足りないところや自社に参考になるところを見ている。
		02.義務表示以外のところをよく見て参考にしている	加工食品メーカーに勤務し、表示作成の担当をしている。職業柄、商品を手にとるときはまず裏を見ている。特に、原材料の表示、強調表示、PRのうたい方を見ている。社内での問合せが多いので、他社のやり方を参考にしている。 加工食品のメーカーに勤務して、表示に関してはリーガルチェック的な業務が多い。お店を回って気になるのは、大手食品メーカーの商品です。機能性表示食品や特定保健用食品の任意表示部分をどう表示しているかが気になり、よく確認している。
		03.アレルギー表示に特に関心がある	外食産業が主体の食品グループで、法令を担当している。グループ内に冷凍食品を製造していたり、スーパーマーケットなどの販売部門もあるため、それらの部門への指導を行っている。アレルギー表示に一番関心がある。外食もやっていることあるので余計に必要なになっているが、他社のアレルギー表示の工夫に気になっている。
	03.ラベラーの性能の把握	04.小規模の事業者の表示からラベラーの（性能の）限界を参考にしている	ラベラーで表示する小規模の事業者さんの商品のラベルもよく見ている。ラベラーの限界がどの辺までになっているのか、どこまでできるのかの参考にしている。
	04.この表示は良くないと思うことがある	05.表示を担当する者として、良くない表示を見かける	スーパーに行った時、食品を見ることがあるが、食品表示の担当者として、この表示は良くないのではないかと感じることもある。
		06.完全栄養食という表現は、消費者に誤解を与える	今、ちまたで「完全栄養食」というジャンルの食品がありますが、基本5項目の栄養成分表示はパッケージに、その他の栄養成分表示は、WEBに掲載されているという商品を見たことがある。この食品は本当に完全なのか、この表示は消費者に誤解を与えない表示なのか、疑問に思った。

インタビュー調査の結果（食品関連事業者）

論点	カテゴリー	コード	要約文
02.栄養成分表示が分かりにくい原因	05.表示の見え目の悪さ	07.文字の太さが細い	ポイントの指定は、栄養成分表示も一括表示も同じ。消費者にとって栄養成分表示が見にくいと感じさせてしまうのは、文字の太さも関係していると思う。
		08.表示可能面積に限界があり文字が小さくなる	パッケージが小さくスペースが少ないものは、食品表示もやりにくい。 表示の文字が小さいのは、表示面積の限界があるから。もう少し大きくするとか、何ポイント以上にするとか工夫できたらと思う。 ラベラーを使って表示するスーパーの総菜では、シールが大きくなりすぎると商品の中身が見えなくなってしまう。その攻防がある。ギリギリ8ポイントにしても、シールの裏面に表示がいつてしまう。そうすると枠で囲むなどの表示ができないので、ただの文字の羅列にせざるを得ないというケースもある。
		09.数字が半角表記で見えにくい	文字が小さいと思われる理由に、数字が半角で表示されていることがあると思う。栄養成分表示は、半角数字の表記なので、小さく見えがちになると思う。
		10.数字の桁数が細かい表示で読みにくい	小数点以下の数字では、小数点以下をどれだけの桁数まで表示しようか悩む。正確にする必要はあると思うが、小数点第3位以下を表示すると細かい数字で書いてあるという印象を持たせてしまうと思う。
		11.100g表示で不親切感がある	量を読み取るのが難しいというのは、100gでの栄養成分表示が認められていることもあると思う。栄養成分表示が100g当たりで表示されている場合、消費者はポーションサイズが分からない。それが不親切とまでは言わないが、事業者側も1製品当たり、1袋当たりで、表示していくような努力が必要だと思う。
	06.表示方法がよくない	12.内容量を増減しても100g表示だと手間がかからない	栄養成分表示を100gで表示しているのは、商品の内容量を減らしたり、増量したりした場合であっても、版下を変える手間やコストがないため、100gで統一した方がメーカー側としてはメリットがあるからだと思う。
		13.小規模の事業者などは表示作成に不慣れ	ふだん一括表示をしていない小規模事業者が、PBを作ることになったら、ふだん栄養成分表示を全くしていないので、100gの分析値をそのまま表示しているということもあると思う。小規模事業者がポーションサイズを表記しないのは、かなり負担があるからだと思う。栄養成分表示の計算方法も意外と複雑と感じる。
		14.ポーションサイズを何gにすべきか分からない	非個包装、大容量の商品だと、1食当たりを何gに想定するのかというのが、考えにくい。だから100gでの表示になっていると思う。
		07.ルールがあいまいでメーカーに解釈が任されている	15.長期保存や調理による成分変化への対応方法が分からない 調理や長期保存による栄養素損失を考慮するなどの場合、小規模事業者はついてこられない。そこは十分に検討すべきだと思う。 調理する食品の場合、栄養素摂取量と食品表示の量に差があるのも問題だが、そうなると加熱でどう増減するか、あるいは、長期保存でどう増減するかという話にもなってくる。どの範囲にすべきかある程度のルールが必要だと思う。 商品に入っている栄養成分の量が、全て摂取されない場合もある。例えば、塩蔵の海藻や乾物などは、水で洗ったり、水で戻すなどの調理をするので、パッケージの量と一致しなくなっている。併記できればしているが、スペースの問題、調理操作や使用重量の観点からも難しいのが現状と感じる。
	08.他の表示に比べ目立たない	16.ルールが見直されていない	栄養学の進歩によって、今までの定説と変わることがある。本当に正しいのかという判断も常に更新しなければいけないので、誤解がないようなルールが欲しい。
17.成分表（八訂）への対応方法が不明		日本食品標準成分表（八訂）で熱量の計算方法が大きく変わった。以前と10パーセント程度ずれる。将来的にはこの成分表での推定値も用いられると思うが、こういう栄養成分表示を変更するときなどと合わせて、変更していただきたい。	
18.アレルギー表示や注意喚起などの他の表示を目立たせている		前面表示で、企業としても目立たせたいのは、アレルギー表示。有症事故を起こさせないように栄養成分表示よりもアレルギー表示を一番目立たせたいと思っている。 栄養成分表示より法定表示全体を考えた時に、安全性や製造物責任という観点から、注意喚起などを思った以上に書かなければならないことが多い。商品のPRという観点だけではなく、製造物責任の注意喚起を一番優先している。	
09.見えづらいと認識されつつ販売されている	19.他の表示を優先し、見えづらい所に表示	栄養成分表示は、例えばアレルギー表示と比べると優先していない。 商品担当から「他社が栄養成分表示を側面になっているから、うちも側面にしませんか」と相談を受けたことがある。商品担当は、表面のPRポイントを意識しがち。法律で表示しなければならない部分については、裏面部分や後ろに追いやられてしまいがち。	
	20.法定表示と遠い場所に表示	栄養成分表示の表示場所が分かりにくいという理由には、一括表示を優先しているからだと思う。パッケージが箱の場合、裏面に入りきらないので、栄養成分表示を側面に表示している。いわゆる一括表示から離して表示してしまっていることもあるので、分かりにくい、探しづらいというのもあると思う。	
	21.企業オリジナルの表示が多くなり伝わりにくい	機能的表示食品など、法定で書かなければいけないものが増えている。全ての表示が圧縮されてきている。メーカーの親切表示も入れることが多くなって、すると消費者が一括表示の方を読む習慣がなくなって、だんだん分かりにくくなっていると思う。余計見なくなって、余計伝わらなくなっていくという悪循環になっていると思う。 食品添加物の不使用表示を始めてから、逆に不使用表示をなくすと添加物が入っているかどうか分からないという声が結構聞かれる。一括表示に書いてあったとしても、見ないという消費者さんが多い。アレルギー表示も親切表示に書いてないとアレルギーが入っていないと思う消費者も増えていると聞いている。 食物繊維やビタミンがたくさん入っているなど、アピールしたいところがあると、栄養成分表示の任意部分もしたくなる。アピールしたいところをしだすと見やすさと反比例していると感じる。アピールできる成分表示を洗々認めているものの自由度を高められるといいと思っている。	
22.ラベラーの性能の限界	22.ラベラーの性能の限界	総菜など小規模での販売するものだと、ラベラーの性能の限界もあり、表示が見にくくなっていると思う。 お弁当などで、一括表示と栄養成分表示を長いラベルにして、下まで貼るような場合、お弁当などの商品をひっくり返すわけにはいかないので、見えないのだと思う。裏面にあると推測はすると思うが、ラベラーの性能の範囲がある。WEBなどのツールを使って表示していくのが大切ではないか。	
	23.小売店での陳列方法によっては見えにくくなる	栄養成分表示の表示場所を決めたとしても、スーパーなどの販売店で、どの棚に置くのか、その位置によっても見やすさは変わってしまう。スーパーでも栄養成分表示がすべて見えるように販売するようにすることも難しい。統一できないと思う。	

インタビュー調査の結果（食品関連事業者）

論点	カテゴリー	コード	要約文	
03.栄養成分表示を分かりやすくする工夫	10.目立たせる	24.文字のフォントを変える	商品によってはスペースが取れなくて、原材料名の下に数字で列記せざるを得ない場合も多い。文字のフォントを変えてみたり、何とか伝える努力はしないといけないと思っている。	
		25.栄養成分表示を枠で括る	栄養成分表示の形や表示場所も大切だと思う。枠でくくった栄養成分表示を目で覚えている方も多いと思うので、このレイアウトを上手に形作れると判別しやすくなると思う。	
		26.目立つデザイン	表示場所が分かりにくい、全体に埋もれているという意見については、デザインをもう少し工夫できたらと思う。	
		27.法定表示同士を近づける	栄養成分表示に比べて一括表示の方が、一般消費者の方々は重要視している方も多いと思うので、一括表示と栄養成分表示を近接して表示するなど、工夫できれば思う。	
	11.理解されやすい表示にする	28.企業オリジナルの基準規定外の表示を整理して法定表示に誘導する	親切表示も整理して、一括表示を優先して書く。親切表示で消費者に知らせるのではなく、法定表示として統一して大切なことを書く、そして消費者にも法定表示に誘導する表示の仕方が大切だと思う。	
		29.表示値をなるべく整数にする	個人的には、小数点第2位で表示するのが限界だと思っている。なるべく小数点第1位にしたいが、ゼロにできないものもあるので、できれば小数点第1位まで、なるべく整数にしたいところ。	
	12.消費者の意見を反映する	30.ポーションサイズで表示	個包装だと計算するのは大変だが、加工食品メーカーとしては、ポーションサイズで栄養成分表示をしていく必要があると思っている。	
		31.ユーザーの意見を聞き、取り入れていく	こんなのがあったらいいなという一般消費者の要望や御意見を参考に、メーカーも努力していく必要があると思う。 病気を持った人から、他の特定の栄養素の栄養成分表示をして欲しいという要望を受けたことがある。そういう要望があれば、メーカー側も応えて表示している現状もある。	
	13.更に情報提供する	32.分かりにくいという理由を考える	消費者は、栄養成分表示をなぜ分かりにくいと思っているのか、メーカーとして知りたい。分かりにくい理由が栄養の知識の問題なのか、表示が目立たないからなのか。その理由が分かれば、メーカーで解決できる案も検討できると思う。 食品メーカーが消費者への教育を行えるかというところできない。「栄養成分表示が分かりにくい」という御意見の意味はどういうことかを考えるのが重要だと思う。	
		33.WEBで追加情報を提供	商品の包装に十分なスペースがあるものは、100g当たりと1食当たりで栄養成分表示をしている。ですが、スペースが限られている商品は、表示すべき内容の一部をWEBに掲載するのでも許されるような制度に、自由度も持たせていただけるような制度にして欲しい。	
34.飽和脂肪酸などネガティブな情報も開示する		ネガティブなイメージのある栄養成分、例えば飽和脂肪酸などは積極的に表示していない。だが、ポジティブなイメージのある栄養成分は、積極的に表示している。これは、消費者にとってよくないとは思いますが、そういう実態がある。知りたい人はリサーチできるように、WEB上で掲載する方法も取り入れた方がいいと思う。		
04.包装前面栄養表示の表示方法	14.基準を決め、スコアリング型かお墨付きマーク型	35.食品のジャンルでスコアリングする	FOPNLに書いていない栄養素は気にしなくなってしまうと思う。どちらかという数字を書くより、国として基準を決めた上で、スコアリング型の方が良いと思う。	
		36.お墨付きマーク型にする	食品のジャンルごとに、基準を作って、スコアリングするのがいいと思う。例えば「糖質ゼロ」という表示も、食肉加工品はすぐできる。お菓子で「糖質ゼロ」は難しく、ものすごい企業努力が必要になる。同じ「糖質ゼロ」の強調表示でも価値が全然違う。だから、食品のジャンルごとに基準を作り評価して、基準をクリアしたものにお墨付きマークをつけると良いと思う。 スコアリング型より、お墨付きマークがいいと思う。そうするとポジティブな表現なので、メーカーも嫌ではないと思う。	
		37.義務表示は難しい	事業者側として考えたときに、もう一枚、ラベルを貼らないといけないのかというところが懸念事項。新たにまた専用の包材やシールをしなければならぬというコストと手間などの事業者側の負担が大きいと思う。FOPNLの義務表示は難しいと思う。	
	15.包装前面栄養表示の位置付け	16.表示する項目数	38.栄養成分表示5項目以外も含めたスコアリング	5つの栄養成分だけでなく、他の栄養成分も含めて、スコアリングした方がいいと思う。
			39.実行可能性も含めむしろ5項目で十分	FOPNLは栄養成分表示の義務表示5項目で十分だと思う。他の成分も表示することになると、メーカーの負担になり、実効性が下がると思う。 FOPNLは栄養成分表示の義務表示5項目の中で表現できるものの方が良いと思う。メーカーもここ数年で、みんな腹をくくったと思うので、5項目のデータはみんな持っているので、抵抗なく受け入れられると思う。
		40.日本の栄養政策と一致させ減塩に特化	海外では、お菓子などは全て「E」がついている。だが、売り上げは下がらないという話も聞く。だが、FOPNLは、東アジア固有の食塩相当量の問題を取り上げ、それをスコアに反映させるのが大切なのではないかと思う。 消費者のニーズはあると思うが、国の健康政策で必須なものをFOPNLで表示してもいいと思う。特に日本では食塩を減らしたいという意向があるならば、FOPNLに取り入れることで、消費者もそうした判断ができるようになってくると思う。	

インタビュー調査の結果（食品関連事業者）

論点	カテゴリー	コード	要約文
05.包装前面栄養表示導入時の専門家から見た懸念事項	17.現行制度との整合性	41.包装前面栄養表示は強調表示に該当するか	FOPNLを実施するにあたっては、強調表示も見直さなければならないと思う。 FOPNLを強調表示とみなすか、みなさないかは事業者側としては重要。強調表示の場合、分析値が必要になる。外部機関に分析を依頼することになると思うが、その費用と結果がでるまでの期間などのスケジュールリングが結構変わってくる。 あるコンビニの商品で、栄養成分表示をアイコンで表示しているのを見たことがある。これは、強調表示に当たるか当たらないか判断に迷ったことがある。この辺は、グレーゾーンでメーカー任せになっているので、表示する上でのルールを細かく決めておかないと、事業者側もどう表示していいか困ってしまうと思う。 同類の商品と相対差がないから、高い旨の表示の強調表示ができないことがある。その場合、FOPNLをカテゴリー型やスコアリング型にしたとき、FOPNLを強調表示に該当するとみなしたとして、今の食品表示基準とずれてしまうので、その問題の解決が必要だと思う。
		42.包装前面栄養表示は推定値でも認めて欲しい	FOPNLの表示では、推定値での表記を認めて欲しい。分析値では事業者側の負担も大きい。 FOPNLは推定値での表記をお願いしたい。食肉加工品の場合、食肉加工部位や個体差、季節差などがあり、変動がある。抜き取り検査で評価されたものと表示値のギャップが生まれてしまう。
	18.表示のデザイン	43.表示は色指定しないで欲しい	FOPNLの表記を色指定されると非常に負担がかかる。色数で包材の値段が変わる。また、ラベラーはどうしても一色が限界なので、カラー指定されると、FOPNLのハードルが高くなる。FOPNLが普及しない理由にもなりかねない。 FOPNLの表記を白黒と指定する場合であっても、取り組みにくい。文字を黒くすると背景の色も変更しなければいけなくなってくる。コントラストのつく色でやった方がいい。
		44.口ゴの大きさを指定しないで欲しい	表示する口ゴの大きさも決められてしまうと、メーカーに嫌がれるなどと思う。デザイン的にも無理が生じる場合もあるかもしれない。
	19.果たして意味ある包装前面栄養表示になるか	45.包装前面栄養表示も結局小さい表示になる可能性がある	今の商品のパッケージの前面に表示するとすると、今でも表示すべき事項がギリギリなので、小さい表示になると思う。それで本当に見えるのか。書いてありますよとアピールはできると思うが、この表示を見て何か役立つのか疑問に思う部分もある。
		46.1日の必要量に対するパーセント表示は人によって必要量が違う	加工食品の栄養素含有量が消費者の1日の必要量の何パーセントをカバーするのかを表記する場合、消費者の性、年齢、体格、病気などによって違うので、難しいと思う。
		47.栄養成分表示に誘導するような表示にならない	義務表示の栄養成分表示につながる、誘導できるようなFOPNLにするのが望ましいと思う。 スコアリング型にすると、若い子にはSNSも普及しているので、誤った情報に飛びついてしまうような風潮になりかねない。評価が高い食品ばかりを摂取して、栄養素摂取量が偏ることによって、健康体が不健康になってしまうと思うので、やはり教育や普及啓発が大切だと思う。 最終的には、栄養成分表示の法定表示を見てもらえるように、誘導できるような前面表示にしていく方がいいと思う。
	20.メーカーのジレンマ	48.どうしても低い評価になる食品のジャンルが生まれる	スコアリング型だとお菓子などは、必ず評価が低くなると思う。健康面で考えるとFOPNLはあった方がいいが、事業者としては、お客様は手に取ってくれなくなるのではないかと心配になる。
		49.任意だと評価の低いものには表示されない	企業側としては、任意表示になった場合、評価の高い商品のみ表示して、評価の低い商品には表示しなくなると思う。勝負ができるものは、強調して表示したい。アピールにもなるが、勝負ができないものには表示しない。
		50.任意でも大手がやれば小規模の事業者にも求められることが心配	FOPNLは義務ではなくて任意だった場合、そうは言っても大手メーカーは表示すると思う。すると、それに引っ張られて小規模事業者にも求められると思う。そういった流れや現状があるのを知っておいて欲しい。
51.評価が高くなるように内容を調整しかねない		評価が低い商品は、逆に評価が低くならないような製品設計に変えようとする動きも生まれるかもしれない。100gだと評価が低くなってしまふ場合、10g減らして表示し、評価が低くならないような印象にするかも。	
21.社会への悪影響	52.栄養成分表示をむしろ見なくならないか心配	FOPNLを包装の前面に表示する。栄養成分表示も表示する。するともっと一括表示を見なくなるという方向に進んでしまわないか。そこが懸念されると思う。	
	53.評価の高いものを選べば量を食べても大丈夫という風潮になりかねない	FOPNLを表示すると食習慣が変わると思う。嗜好とは別に、評価の高い商品ばかりを選んだとしても、摂取する量によっては、その先に健康があるかどうかは分からない。また、逆に病気を持っていると、その商品は適さない場合もある。やはり消費者側の教育が必要だと思う。 評価の高い商品であったとしても、その商品ばかり摂取すれば、よくないこと。逆に評価が低い商品であったら、おいしくてよい商品なのに、手に取りたくなくなってしまうのではないかと消費者が思うと思う。そこがメーカー側が懸念するところです。	
06.栄養成分表示が正しく活用されるための方策	22.普及・啓発活動の実施	54.学校教育の中での教育	栄養成分表示について知っている者の割合は、10歳代で特に多い。家庭科の授業でそういう教育がされていると聞いている。だから20歳代以上では知る機会がないという理由もあると思うので、啓発活動をして欲しい。メーカーでは教育までは難しい。
		55.消費者への教育	学校教育の中で食品表示を教えるのではなく、消費者庁主導で、消費者教育をして欲しい。一括表示を見たら大切な情報が入っているところをみんなが認識したら、栄養成分表示の認知度も上がっていくと思う。
	23.教育すべきことの具体	56.法定表示の読み方	アレルギー表示や栄養成分表示など、親切表示ではなく法定表示に書いているということをきちんと消費者に啓蒙活動することが大切だと思う。
		57.包装前面栄養表示の使い方	やはりFOPNLは、どういうふうにするのかということもきちんと教育や啓発活動をした上でやっていくことが必要だと思う。
		58.栄養素必要量の基準値	消費者側の教育が大切だと思う。自分に必要な量が分からないまま栄養成分表示を見ても、これは体に良さそうだから、という基準で選択している場合もあると思う。メーカー側から教育は難しい。自分に必要な量がもっと認識されるような消費者教育をして欲しい。
		59.数字の意味	数字の意味が分からない状態で、どれだけ目立つように表示しても消費者の方は分かりにくいと感じると思う。意味を理解できるようにする食育が重要だと思う。 私も食育が大切だと思う。食品に数字を表示していても、何を意味していて、どのぐらいの量なのかイメージできないとただの数字になってしまう。意味がある数字にする必要があると思う。
60.評価の低い食品の取り入れ方	スコアリング型やカテゴリー型のFOPNLで、評価の低い食品であったとしても、摂り方によっては良い場合もある。スコアリング型とカテゴリー型のFOPNLを取り入れている国々はどうやって解決しているのか気になる。		